

一千八百三十
年及同三十

ヲ攝政者ニ定メシモ事甚ダ容易ナリト雖也王ノ殂落後ニ
 在テハ攝政者タルヘキ者ハ直ニ其權力ヲ握ル者ニシテ隨
 テ其職位ヲ求ムル者必ス多カル可シ而シテ斯ク多數ノ候
 補者中ヨリ一人ノ攝政者ヲ選拔スルハ甚ダ困難ナラサル
 ナ得サルヘシ加之未生ノ王子ノ權利ヲ豫想スルカ爲メニ
 相續權ノ何レコ屬ス可キ乎ニ關シテ議論ヲ生スルコトアル
 ニ於テハ更ニ一層ノ困難ヲ生セサルヲ得サルナリ是ヲ以
 テ下院ニ於テハ速ニ攝政者ヲ定ムルヲ必要ナルコトヲ王ニ
 奏上セント勉メタリト雖也宰相ハ之ニ抗拒シテ其抗拒ノ
 說終ニ行ハルハ所トナレリ故ニ此疑問ハ新選議員會合時
 時マテ之ヲ延期スルコトニ決シタリト云フ云々
 斯ク疑懼セシ所ノ危害ニ逢遭セサリシハ甚ダ幸ナリト云

一年ノ攝政條
例

ラ可シ而シテ新選議院ノ會合スルニ及ヒ熟按セテ所ノ攝
 政條例ヲ提出シタリ此議案ニ於テ女王(按即チゾイツト
 リア指ス)ハ八歳ノ齡ニ達スルマデハケシト公ノ寡夫人(按即チゾイツト
 リア指ス)ヲ以テ攝政者ニ定ムルコトナレリ又此議案ニ於テハ先年
 以例ニ倣ヒ攝政參議會ヲ置テ攝政者ヲ束縛セシムル如
 キヲ議テ立テサリキ蓋シ議案ノ意ハ攝政者ヲシテ王權ヲ
 維持スルヲ得セシメシムルハ攝政者カ國王ノ特權ヲ施行ス
 ルノ自由ヲ有スルコト却テ國王カ自カラ其王權ヲ施行スル
 時ヨリモ更ニ大ナラシキ要スト云フニ在リ固ヨリ此ノ如
 キ攝政參議會ヲ設ケテ攝政者ノ邪心ト權勢トヲ制セサレ
 可カラサルノ場合時ニ之ナキニ非ス然レモ茲ニ論スル場
 合ノ如キニ於テハ攝政者ハ決シテ王位ヲ繼續スルコト能ハ

サルノ人ニシテ且ツ最モ親密ナル血縁ニ因リテ次代ノ君
 主タルヘキ女王ニ愛着シ之ト其利害ヲ同フセル者ナルヲ
 以テ攝政者ハ誠實ニ幼稚ナル女王ノ權力ヲ保護スルノ外
 於他ニ目的ヲ有ス可キノ理ナキナリ故ニ攝政者ハ束縛セ
 ラルハコトナク唯責任宰相ノ手ヲ經テ國家ノ政治ヲ施シ其
 助言ニノミ因リテ事ヲ行フノ自由アル可キナリ
 憲法上最モ緊切ナル他ノ疑問ノ如キモ適當ニ之ヲ論定シ
 得タリトス蓋シ國王殞落ノ時ヨリ遺腹ノ王子降誕ノ時
 デス間ニ如何ニ王權ヲ施行ス可キ乎以疑問ニ關シテ之ヲ
 處置シタルノ例ハノルマン^(按)征克^(按)ノルマン^(按)征克^(按)ノルマン^(按)征克^(按)
 シヨリ侵入シ英國ヲ征服ノ時以來未ダ之ヲサカスナリ故
 ニ此緊要ナル疑問ニ關シテハ未ダ一定ノ法律ノ存スルヲ

然大ニ雖^レ熱心不動產相續法ノ類例ヲ徵スルニ其考
 又人類普通ノ情ニ照テ之ヲ察スルニ未生ノ王子が現
 ニ王位ヲ占ムル能ハサルハ明カナル正統ノ親父王位ハ一
 日若空虛ナリ可ク知ス而シテ國王ハ永久死スル者ナ
 リ故ニ國王殞落セバ假定ハ繼續者ハ直ニ王位ヲ占ムル
 可カラス而シテ後日王位ニ繼續スルニキ權利ヲ有スル所
 王子ノ降誕スルル^レハ假定ハ繼續者ハ其王位ヲ之ニ讓ス
 サル可カラズ若シ議院此事ニ干渉シテ未生王子ノ降誕
 時マデ政治ヲ行フニシテ之ガ爲メニ攝政者ヲ立ツルハ
 歟此^レ如キニ攝政者ハ君主ニ代リテ君主ノ名義ヲ以テ政
 治ヲ行フノ代理者ト云フ可カラズテ寧ロ一時攝政者ハ
 名稱ヲ以テ議院ノ爲メニ立テテ之レヲ君主ナリト謂フ

可シ若シ又王子ノ降誕セサル時ハ仮定ノ繼續者ハ此間其
 王位繼續ノ權ヲ不正ニ奪ハレタル者ト謂ハサル可カラス
 然ル而シテ今以上ノ正確ナル原理ニ准據シテ攝政者ヲ立
 テントセリ即チ王ノ姪女ヴィクトリア未下年ノ間ニ王ハ
 殞落スルヲアレハ直ニヴィクトリアヲ立テテ女王トナセ
 左ト雖爾後日若シ王后ニ於テ王子ヲ學クルヲアルニ於テ
 ハヴィクトリアハ其王位ヲ右王子ニ讓テ攝政可カスルヲ
 ト豫定シ又ケント公ノ寡夫人ハ直ニ幼稚ナル女王ハ爲ル
 其各義ヲ以テ攝政者ナルハ職ヲ執ルベシト雖爾若シ選
 腹在王子ノ降誕スルヲアルニ於テ王后ヲ以テ王子ハ爲
 夫ニ攝政者トナルヲ定メテ而シテ此等ノ原理ハ各政
 黨ハ政治家及法律家ノ舉テ可トセシ所ナシテ以上ノ攝

ヴィクトリア
 女王ノ世ノ最
 初ノ攝政條例

政條例案ハ初メヴィクトリア公ノ内閣ノ起草ニ係ルト雖
 シレト公ノ内閣ニ於テモ亦之ヲ探リテ以テ其可決スル所
 トナレリ是レ實ニ將來ノ事變ニ處スルノ最モ宜キヲ得タ
 ルノ方法ニシテ而シテ其事變ノ竟ニ起ラザリシハ甚々幸
 ナリト謂フ可シウリアハ四世ハ短促ニシテ而カモ多事ナ
 ル一期間ヲ統治スルノ後一千八百三十七年ニ至リ終ニ殞
 落セリ此時女王陛下ハ纔ニ一ヶ月ヲ俟タズシテ滿十八歳
 ニ達シ得ルノ齡ニシテ祥瑞吉兆ニ圍ヤレテ王位ニ登リ而
 シテ此等ノ瑞兆ハ爾後果シテ悉ク實驗セラレタリ
 女王陛下ノ王位ニ即クヤハノイザルノ王ヲ以テ仮定ノ王
 位繼續者トナセリ而シテ王ハ恐ラクハ外國ニ住ス可キカ
 故ニ若シ女王陛下ノ殞スルヲアルニ際シテ王ノ尙ホ外國

一千八百四十
年第二ノ攝政
條例

ニ在ル間ハ代テ政治ヲ行フノ代理者ナカル可カラズ因テ
 王ノ英國ニ來ルマテハ國王代理裁判官(按)チヤンセルリー廳
 ナ以テ國王代理トナシ其不在中政務ヲ中上告裁判官二名
 假攝セシム之ヲ國王代理裁判官ト云フニ於テ王ノ名義ヲ
 以テ政ヲ攝行スルヲ定メタリ然ルニ女王ハ一千八百四
 十年ニ至リ婚禮ヲ行ヒシヲ以テ更ニ他ノ事變ニ關シテ豫
 メ準備ヲ爲サ、ル可カラサルニ至レ、此事變ハ前段ノ事
 變ニ比ズレバ或ハ起ルアラントシ患更ニ多カリマ、雖、
 竟ニ其事ノ起ルナカリシハ亦幸甚、ト云フ可シ此豫想ノ
 事變ニ關シテ議院ハ一千八百三十一年ノ先例ニ從ヒ若シ
 女王ノ子ニシテ其十八歳ニ達スル前ニ王位ニ即クヨ、
 於テハ王夫アルニ、(按)即チダウクトリ、(按)即チダウクト夫ハ、
 立然ルニ、又攝政參議會ヲ置クヨ、且國王ノ特權

ヲ施行スルコトニ關シテ攝政者ノ權ニ制限ヲ設ケサルコト
 定メタリ然レ、王位繼續ノ順序ヲ變スルノ議案ト、英國ノ
 教會ニ於テ畫一ノ禮拜式ヲ行フコトニ關スルノ議案ト、蘇格
 蘭ノ教會ノ權利ニ關スルノ議案ト、ニハ攝政者ニ於テ之
 ナ認可スルノ權ナキ者トセリ而シテ此等ノ主意ニ根據シ
 テ立案セシ所ノ議案ハ各政黨ノ是認ヲ得テ之ヲ可決スル
 ニ至レリ

示テ者... 我王國中諸族... 其變遷消長毫... 莫異ナシ... 所アラサル... 古昔ニ於テハ... 全國ノ土地ハ國王ノ有トナシ種々... 借地法ニ從テ... 國人之テ借受ケル者... 故ニ國王ノ歲入... 土地讓渡認許料... 借地免役謝金... 初年... 十分一稅... 其他是等ノ土地... 生スル所ノ諸利益... 國王借時ニ於テ王室ニ屬セシ所... 國王直領ノ土地... 借地料等ヨリ成テ... 者... 然リ而シテ... 國王カ數多ク從者ヲ養ヒ賓客ヲ優待シ宮廷ヲ華美ヲ飾ラシメ... 新事ヲ外ニ別ニ國王ノ費用ヲ要ス可キヲ殆ノト之ヲ... 若シテ事アルハ... 借地人ハ各人ヲ... 軍務ニ服セシムルヲ得而シテ此等ノ借地人ハ各... 貴賤家ノ費用ヲ以テ一隊ノ兵馬ヲ出タシテ國王ノ爲メニ

戰後者... 其地... 借受ケル者... 若シテ... 國王ノ... 借地... 免役... 謝金... 初年... 十分一... 稅... 其他... 是等ノ... 土地... 生スル... 所ノ... 諸利益... 國王借時ニ於テ王室ニ屬セシ所... 國王直領ノ土地... 借地料等ヨリ成テ... 者... 然リ而シテ... 國王カ數多ク從者ヲ養ヒ賓客ヲ優待シ宮廷ヲ華美ヲ飾ラシメ... 新事ヲ外ニ別ニ國王ノ費用ヲ要ス可キヲ殆ノト之ヲ... 若シテ事アルハ... 借地人ハ各人ヲ... 軍務ニ服セシムルヲ得而シテ此等ノ借地人ハ各... 貴賤家ノ費用ヲ以テ一隊ノ兵馬ヲ出タシテ國王ノ爲メニ

王家ノ土地ヲ
賜與スルコト

ハ累代常ニ然リトスル所ナリ且又人民ニ於テ不正ニ土地
ヲ占領シ若クハ之ヲ蠶食スルコトアルカ爲メニ更ニ王家ノ
土地ヲ減セシムルニ至ルコトアリ故ニ累代ノ諸王ハ土地ヲ
賜與スルノ寛ナリシコト悔ヒテ一旦濫リニ賜與シタル地
地ヲ再ヒ不正ノ手段ヲ以テ取上ケシコト屢々之アリ然レ
モ會テ豊富ナリシ王家ノ歳入ヲ耗セシコト頗ル甚クシ
テトントリノ三世ノ如キハ其歳入ヲ以テ其食料ヲ給スルニ
足ラサルコト嘆息スルニ至レリ而シテ貧窮ナル此王ハ宮
内ニ用ユル所ノ牛肉及ヒ穀物等ヲ購買セシカ爲メニ手形
ヲ發セシカレ可カラザルノ有様ニ陥レリ然レモ王ハ人民
ヲ拜領地ヲ取上ケ又叛乱セル貴族ノ土地ヲ沒收セシカ故ニ
其歳入ノ窮乏ヲ救フヲ得ザリ嗣テエドワド二世ノ時ニ

至リ王ハ濫リニ土地ヲ賜與セシヲ以テ議院ニ於テ王家ノ
土地ヲ賜與スルコトヲ禁スル所ノ法令ヲ發スルニ至レリ然
レモ王ハ即位第十五年月日クニ開キタル國會ニ於テ此法
令ヲ廢止セザリ此ノ如ク王ハ歳入ヲ浪費セシト雖モ沒收
地ノ多カリシヲ以テ其費ヲ給スルヲ得タルナリハ一途
又リチヤド二世カ土地ヲ賜與スルニ寛ニシテ沒收地
濫費セシコトハエドワド二世ニ讓ラサル者アリキ蓋シ夫
レ蓋シノ戰爭（按一千四百六十年ノ項ニ當リ英國ニ於テ
ハ戰亂三十年ノ久キニ及ヘリ此時ラシカスタニ黨ハ赤色
ノ號トセリ故ニ此亂ヲ稱ニ因テ土地ヲ沒收セシコト極メテ多
クシテ全國土地ノ大半ハ國王ノ所有ニ屬スルニ至レリ故
ニ若シ此等ノ土地ヲ國王ノ手ニ存シタランニハ歐洲中又

共和政治ノ時ニ於テ土地ノ歳入ノ減絶セシ

八百七十磅ニ超ヘサリシト雖田王ノ負債ハ一百万磅以上ノ多キニ登リシト云テ而シテ王ノ治世間ニ於テ王ハ七十
七万五千磅ノ土地ヲ賣却シ又之ヲ殆ト同額ノ負債ヲ遺シ
然レ田土地ノ歳入ハ更ニ一層ノ凶日ニ逢遭セサル可カテ
サレ者アリキ蓋シテトゾ一世ハ議院ヨリ租税ヲ供給ス
得ルヲ能ハズ又不正ニ取テ手段ヲ施シタリ雖モ多ク
得ル所ナカリシヲ以テ止ムテ得ズ王家ノ財産ヲ賣却シ又
之ヲ典却スルニ至レリ王死スルノ後議院ハ王ノ開始セシ
所若例ニ倣ヒテ奪掠ヲ處置ヲ行ヒ議院ニテ募リ兵士
給金ヲ殘高ヲ拂ヒ又新政府ノ負債ヲ償却セシカ爲メ
殆トト王家財産ノ全部ヲ賣拂ヒタリ復位ノ時ニ及ビ右議

王家ノ歳入ノ回復及ヒ爾後之ヲ浪費セシ

院ニ於テ行ヒタル賣拂ハ其無効ナル旨ヲ布告シ王家ノ
産物大部ハ之ヲ復シテ得ル(按本政府ハ一九一四年
チヤノ共和政府ヲ云フ而シテ復位トアルハ一千六百六十
六年共和政府ノ歳入ニ復シテヤリ云フ然レ田之ヲ復シ
二世ノ英國ノ王位ニ復セシヤリ云フ故ニチヤトゾ二世
唯再ビ之ヲ浪費セシカ爲メナルヲ云フ故ニチヤトゾ二世
即位ハ第三年ニ至リ王家ノ歳入ハ一年三十一万七千九百
磅ヨリ十五磅ニ減シタリ王ハ其即位ノ第一年ニ於テ若
ハ内地物産税ヲ立ツルハ代償トシテ後見事務局(按在時英
國王ノ借地人ノ未丁年ナル間ハ國王之手後見シテ其土地
ヨリ此後見ノ事務ヲ借地人ニ課スルハ軍役トテ廢止セリ
下ハ取扱フノ局ナリト是レ國王カ其世襲ノ歳入ヲ捐棄シタルノ嚆矢ナリトス
又王ノ治世間ニ於テ議院ノ條例ヲ以テ王家ニ屬スル所ノ

免役地ノ借地料ヲ賣拂ヒタリ(按)免役地下ノ之ヲ借有スル者ニ於テ國王ニ隨身ノ誓ヲ爲スヲ要セス又軍務等ニ服スルヲ要セス嗣テウヰリアム三世シテ單ニ借地料ヲ拂フ所ノ土地ヲ云フ而シテウヰリアム三世ハ其從臣ヲ待スルヲ寬キ過キシヲ以テ議院ノ諫諍ヲ招キ加之王ハポルトランド公ニ巨大ノ贈與ヲ爲シ王ノ手ニ六志八片ノ借地料ヲ課スルノ權ヲ保存スルノ約ヲ以テテオスビト全區ノ五分ノ四分土地ヲ公ニ與セタリト雖モ議院ノ諫諍ニヨリ再ヒ之ヲ取上ケルカズ得サルニ至レ然レモ王ハ更ニ他ノ土地ノ莊園ト爲公ニ與ヘテ以前約ヲ償ヒテテオスビトノ約ヲ廢スルハ其時ノ人々當時下院ハ國王世襲ノ歲入ノ絶テ減少スルヲ痛ク患ヘシテ以テオヤトレネ三世ウヰリアム三世ハ賜

王家ノ土地ヲ讓渡スルヲ禁スル

與セシ所ノ土地ヲ取上ケンカ爲メ又今後王家ノ土地ヲ讓渡スルヲ禁セシカ爲メニ屢々條例ヲ設ケテウヰリアム三世ノ治世ノ晩年ニ於テ議院ハ土地ノ歲入ノ有様ノ報告ヲ得タリシニ此等ノ歲入ハ賜與讓渡賃入豫約恩給金年金等ノ爲メニ甚ク減シテ其總額ハ一平方里ノ土地ヨリ生スル所少借地料ノ高ニ超ヘサルヲ發見シタリ(按)豫約恩給金ト與ヘルニアラスシテ將來ニ之ヲ與ヘンヲ約スル者ナリ譬ヘハ夫ノ死スルニ及ンテ其婦ニ年金ヲ與ヘンヲ豫約スルノ類ナリ國王カ此ノ如ク權利ヲ濫用スルハ最早之ヲ坐視ス可カラサルヲ以テ議院ハ女王アンノ王室年俸金決定ムルハ當リ終ニ此事ニ干涉シテ以上王權ノ濫用ヲ禁セントセリ然レモ今ニシテ此事ヲ爲スハ時既ニ後レタリト謂フ可シ蓋シ

議院ハ悲ム可キノ事實ヲ明言シテ曰ク往時ニ於テハ王室
 ナ支持スルニ必要ナル費用ノ全額若クハ其大半ハ土地ノ
 歳入ヲ以テ之ヲ給シタル者ナルニ此等ノ歳入ハ累代ノ王
 及ヒ女王ノ賜與ニ因リ時々減少シタリ而シテ我女王陛下
 ノ今代ニ至テハ土地ノ歳入ハ極メテ減少シ陛下ノ政府ヲ
 支持スル爲メニ得ル所ノ金額ハ甚ダ寡少ノ額ニ減シタリ
 ト然レモ此時ニ於テ尙ホ殘存セシ所ノ歳入ヲ維持セシカ
 爲ニ制ヲ立テ、曰ク今ヨリ以後王家ノ土地ヲ貸渡スニハ
 其期限ハ三十一ケ年若クハ三生命（按三生命トハ三人ノ生
 命ニシテ三生命トハ三人ノ期
 限トシテ土地ヲ貸渡ストハ譬ヘハ茲ニ甲乙丙ノ三人アリテ
 其中一人タルモ在世スル間ハ其土地ヲ取上ケサルヲ云フ
 ノ上ニ出ツ可カラズ而シテ必ス相當ノ借地料ヲ國王ノ手
 ニ保存ス可シ但家屋ヲ貸渡スハ此限ニアラスト若シ夫レ

國王ノ淺慮ナ
 リシカ爲メニ
 人民ノ自由ヲ
 發達セシム

復位ノ後速ニ此ノ如キノ制ヲ立テタラシムニハ必スヤ土地
 ノ歳入ヲ以テ女王アソノ王室費ノ全部ヲ給スルヲ得シナ
 ル可シ然レモ以上ノ制ヲ立テタルカ爲メニ當時尙殘存セ
 シ所ノ僅少ノ王有地ヲ維持スルヲ得タルトハ明ニシテ又
 アソノ世ト次キノ二代ノ間ニ於テ戻リ領及沒収地等ノ之
 アリシカ爲メニ稍々王家ノ土地ヲ増加シタリ、
 王家ノ財産ヲ斯ク濫費シタルカ爲メニ大ニ政府ノ歳入ヲ
 害シタリト雖モ之カ爲メニ却テ人民自由ノ發達ヲ促シタ
 リ若シ國王ヲシテ耕作ヲ施シ改良ヲ加ヘ以テ宏大ナル世
 襲ノ土地ヲ有セシメシメシテ國王ガ此ノ如キノ土地ヲ有
 セザルニ比スレハ其議院ニ依頼セサル可カラサルノ必要
 少ナクシテ勢ヒ獨立獨歩スルニ至リシナル可シ然ルニ國

議院ニ於テ國王ノ歲入ヲ議定スルノ緊要ナルヲ

王ノ無謀ナリシカ爲メニ臣民ノ給與ニ依頼セサル可カラサルノ必要ニ迫ラレ示後國王ノ入用ト政府ノ失費ト益々増加スルニ從ヒ終ニ國王ハ全ク議院ノ管制ニ服セサル可カラサルニ至レリ
人民ニ於テ政府ノ行政部ヲ管制スルヲ得ンカ爲メトハ下院ニ於テ租稅ノ供給ヲ議定スルニ至リシコトホト緊要ナル憲法上ノ變革ハアラサルナリ又國王權力ノ過度ノ擴張ヲ制センカ爲メニ議院ニ於テ嚴ニ國王ノ歲入ヲ議定スルコトホト有効ナル策ハアラサルナリ
查理レネ三世ノ時ニ至リ議院ノ令ヲ以テ租稅ノ費途ヲ指定スルノ主義始ニ確定セラレタ此事ハ議院カ政府公費ノ爲メニ租稅ヲ供給スルニ於テ履行セサル可カラサル所ノ一條件トナレリ以前ト雖モ此

革命以前ノ國王ノ歲入

主義ヲ認メシコトナキニ非スト雖モ公然之ヲ確定シタルハ實ニ此時ニアリトス然レモ革命前ニ於テハ(按一千六百八十八年ノ革命)國王ニ身ノ費用ニ關シテハ一モ制限ヲ立ツル所アラザリキ蓋シ從前ハ累代國王即位ノ初年ニ議院ニ於テ國王ノ通常ノ歲入ヲ定ムルノ例ニシテ此等ノ通常歲入ハ平和ノ時ニ在テハ國王ノ威嚴及ヒ政府ヲ維持スルコト國家ヲ防禦スルコトノ費用ニ充テシカ爲メニ之ヲ供給シタル者ナリ而シテ此外ニ非常ノ事アルニ會セハ臨時ニ特別ノ金額ヲ供給スルコトナリキ此等ノ通常歲入ハ第一ニハ國王所屬ノ世襲ノ諸歲入ヨリ成リ又第二ニハ國王一世ノ間國王ノ爲メニ議定セシ所ノ租稅ノ收入ヨリ成ル者トス而シテ國王世襲ノ歲入ハ國王直領ノ土地ノ借地料封建的ノ諸權

利、驛遞局ノ収入、酒商免許料等ヨリ成ル者ニシテ一千六百六十年チヤールレス二世カ封建的ノ借地法ヲ廢止シタル後ハ更ニ内地物産税ノ一部分ヲ加ヘタリ(按)封建的ノ諸權利ハ玉カ土地所有者ニ對シテ有セシ所ノ諸種ノ權利ヲ云フ、シエームス二世ノ時ニ於テ國王世襲ノ歲入ト王ノ一世ノ間王ノ爲メニ議定シタル租税トノ合高ハ平均一ケ年百五十万零々九百六十四磅ナリシト云フ而シテ此歲入ノ總高ヨリ政府必要ノ諸費ヲ扣除シテ尙殘額アル也此殘額ハ國王カ自家ノ威嚴ト權勢トヲ維持セシメ爲メ若クハ其快樂ト浪費トヲ恣ニ爲メニ隨意ニ之ヲ消費スルヲ得シナリ然ルニチヤールレス二世ノ如キハ其一身ノ費用ヲ得ヘキ此等ノ泉源ノミヲ以テ尙ホ足レリトセシテ議院ニ於テ

ウヰリアム及
ヒマリーノ王
室年俸金

特別ニ戰費ニ指定セシ所ノ巨大ノ金額ヲモ自家ノ私用ニ供セシト疑フ可カラサルナリ、故ニ將來ニ於テ此ノ如キ濫用ヲ防ガシガ爲メニウヰリアム及ヒマリーノ即位スルニ及ヒ議院ハ別ニ王室年俸金ヲ制定シテ立テタリ而シテ此王室年俸金中ヨリ國王宮内ノ諸費及ヒ國王一身ノ諸費ト文官ノ給料及ヒ年金等ヲモ仕拂フ可キ者トセリ即チ平和ノ時ニ於テ國王ノ爲メニ供給スル所ノ歲入ヲ百二十万磅ト議定シ此内約ムテ七十万磅ヲ以テ王室費トナセリ而シテ此王室費ハ一年四十万磅餘ヲ出ス所ノ國王世襲ノ歲入ト約ムテ三十万磅ヲ出ス所ノ内地物産税ノ一部分トヨリ成ル者ナリ斯ク此時始テ施セシ所ノ制ハ後代ニ於テモ續テ之ヲ行ヒ現今ト雖モ王室年俸金ハ

女王アンノ王室年俸金

ジョージ一世ノ王室年俸金

單ニ國王ノ費用ノミニアラステ政府ノ文治ニ屬スル費用ノ一分ヲモ此中ニ含ムナリ

女王アンノ王室年俸金モ議院ニ於テウヰリアム三世ノ王室年俸金ト同様ノ方法ヲ以テ之ヲ定メ其金額モ之ト同様ニ算定セリ而シテ女王ハ自家ノ爲メニ議定セラレタル歳入ノ或ハ前王ノ得シ所ノ歳入ノ高ニ及ハサルアラソヲ恐レタリト雖モ尙ホ一ケ年十萬磅ヲ出シテ之ヲ公費ニ充テントチ約シタリ然ルニ女王ハ此約ヲ履行セザリシノミナラズ其在位十二年ノ間ニ百二十萬磅ノ負債ヲ起シタリ而シテ議院ハ公債ヲ募集シテ右ノ負債ヲ仕拂ヒ又此公債ハ王室年俸金中ヨリ之ヲ償還ス可キトナセリ

ジョージ一世ノ王室年俸金ハ一年七十萬磅ニ算定セリ而

ジョージ二世ノ王室年俸金

シテ此治世間ニ百萬磅ノ負債ヲ起セシヲ以テ議院ハ以上同一ノ方法ニ從テ此負債ヲ仕拂ヒタリ

國王世襲ハ歳入ハジョージ二世ノ時ニ至ルニ尙ホ遺存シテ若シ此等ノ歳入ノ一年八十萬磅以下ニ減ルルハ議院ニ於テ其不足ヲ補フノ法ニシテ此金額ニ超過スル所ノ殘額アレハ其額ノ多寡ヲ問ハス國王ハ悉ク之ヲ収ムルノ權アリシナリ此法ニ據レハ王室ノ歳入ノ最低額ハ一定セル者ニシテ其以下ニ減スルコトアラザルガ故ニ稍々定額王室年俸金ノ制ニ近キ者ト云フ可シ而シテジョージ二世ノ在位中ノ最後ノ五年間ニ於テハ此等ノ世襲ノ歳入ハ平均一ケ年八十二萬九千五百五十五磅ニ登リタリト雖モ全治世間平均スルハ一ケ年八十萬磅ニ達セサルナ

リ一千七百四十六年ニ於テ王室年俸金中ヨリ仕拂ハサル
可カラサル所ノ四十五万六千磅ノ負債アリテ此負債ハ議
院ニ於テ之ヲ償却セリ蓋シ王ノ言フ所ニ據ルニ世襲歳入
ハ一万年八十万磅以下ニ減シタルカ爲メニ此等ノ負債ヲ
起セシ者ナレハ議院ハ最初ノ契約ニ從ヒ其不足ヲ補ハサ
ルヲ得サリシナル

ジョージ三世
ノ王室年俸金

ジョージ三世ノ王位ニ即クニ及ヒ王ハ議院ヲシテ其適當
ト思惟スル所ニ從ヒ英蘭内ノ國王世襲ノ歳入ヲ自由ニ處
分スルヲ得セシメテ一一致セリ又從來國王ハ議院ニ於
テ十分ナリト算定スル所ニ從ヒ若干ノ歳入ヲ得タリト雖
モ今ヤ王ハ宮内ノ諸費ト國王ノ尊榮ト威嚴トヲ維持セン
カ爲メニ王室年俸金トシテ定額ノ金ヲ受クルヨリテ諸事

而シテ議院カ直接ニ國王ニ身ノ費用ヲ管制スルニ權ヲ有
スル一ハ此時始テ公認セラレタル者ニシテ王カ自家ノ特
權ヲ擴張シ國家ノ他ノ諸權力ヲ控制ヲ免レシメニ銳意
ルノ際ニ在テ却テ國王ト議院トノ關係ニ此ノ如ク緊要ナ
ル變革ノ起リタルハ甚ク奇ナリト云ハサル可カラズ然レ
モ幾時ナラスシテ王カ負債ヲ起シタルヲ見レハ王ハ以上
ノ讓與ノ爲メニ決シテ國王ノ權勢ヲ減セシムルノ意圖非
サリシヲ知ル可キナリ
議院ノ種々ノ條例ニ據リ前代諸王ノ手ニ歸セシ所ノ世襲
ノ歳入ハ今ヤ悉ク之ヲ「アングレター」ト稱スル一科
目ノ公債償却資金ノ中ニ算入シ而シテ當時ウエールス妃カ
ムヘルランド公、王女アメリイ等ニ與ヘシ所ノ年金ノ廢止

王室年俸金外ノ國王ノ歳入

セラレサル間ハ右アングレグ、ト、フランドノ中ヨリ年々七十
 二万三千磅ノ金額ヲ王ニ供給シ若シ此等ノ年金ノ廢止セ
 ラレシ後ハ一ケ年八十萬磅ニ至ルマデハ王ノ王室年俸金
 ノ高チ増加ス可キコニ定メタリ故ニ王ハ前王ノ時ノ王室
 歳入ノ最低額ニ甘ンシテ剩餘金ヲ収ムルノ權ヲ捐棄シタ
 ル者ナリ而シテ此等ノ剩餘金ハ王ノ治世ノ最初八年間
 於テ平均一ケ年十萬磅ニ達シタル者ナリキ
 然レトモ王ハ此外ニ議院ノ管制ス可カラサル他ノ歳入源泉
 源ヲ有セリ蓋シ王ハ英蘭内ニ於テハ國王及ヒ海軍省ノ没
 収權ヨリ生ズル諸歳入按國王及ヒ海軍省ノ没収權ヨリ生
 財產ヲ沒収シ又ハ敵國ノ船船諸歳入ヲ海軍省國王ヲ叛民
 没収スル等ノ事ヨリ生ズル諸歳入ヲ云フ四分五厘ノ租
 稅及ヒ其他偶然ニ生ズル所ノ諸歳入ヲ有セリ又王ハ蘇格

蘭ニ於テ世襲ノ財產ヲ有シ愛蘭ニ關シテハ別ニ該國ノ王
 室年俸金ヲ有シ其他コロンウ、アル及ヒランカ、ス、前ノ豐
 美ナル公領ヲ有セリル、氏、王ノ王室年俸金ト以テ
 諸歳入トヲ合スル時ハ王ノ歳入ノ總高ハ殆ハ一千万磅
 額ニ達スルコトヲ算シタリ而シテ此計算中ニハハツ、海、軍、省
 ノ領地及ヒオ、ス、ナ、ル、シ、ン、寺、領、ヨ、リ、生、ズ、ル、所、ノ、歳、入、ヲ、算
 入セサル者ナリトス又王ノ長久ナル一治世ノ間ニ國王及
 ヒ海軍省ノ没収權ヨリ生ズル諸歳入及ヒ其他ノ偶然ニ生
 シタル諸歳入ノ收入總高ハ一千二百七十萬五千四百六十
 一磅ノ巨額ニ達シ而シテ此等ノ歳入ハ全ク議院以認知セ
 ル所ナリトス然レトモ王ハ此等ノ歳入中ヨリ自ラ二百六十
 万磅ヲ公務ニ充テ又其五百三十七萬二千八百三十四磅ハ

王室年俸金中
ヨリ仕拂ハサ
ル可カラサル
費用

捕奪者ノ費用ニ供シ捕奪ノ業ニ従事セル人々ニ仕拂ハサ
ル可カラサル費用
〔按〕捕奪者トハ敵國ノ人又ハ敵國ノ物品ヲ
海上ニ奪フ等ノ事ニ従事セル者ヲ云フ 故ニ此等ノ金額
ヲ扣除スルルキハ現ニ王ノ収入セル金額ハ則チ四百七十三
万二千六百二十七磅ナリ而シテ前代ノ王ハ一ノ四ノ一八世
以後ノ諸王中最モ節儉ヲ行ヒタルノ王ニシテ其王室年俸
金中ヨリ十七万二千六百〇五磅ヲ貯積セシカ是レ亦ヨリ
一ノ三ノ三得ル所トナレリ 故ニ此等ノ金額ハ其ノ
此等ノ歳入ハ巨額ナリシト雖ヒ之ヨリ仕拂ハサル可カラ
サル所ノ負擔ハ更ニ巨額ナリキ官位及ヒ年金ハ次第ニ増
加シテ王室ノ歳入ヲ以テ之ヲ仕拂フニ足ラザルニ至レリ
シヨリ一ノ三三世ノ位ニ即クニ及ヒ王ノ前王ノ宮内官吏ノ大
半ハ之ヲ保續シ同時ニ自家ノ數多ク從臣ヲ宮内ニ加ヘ

然レモ此ノ如ク王室年俸金中ヨリ仕拂ハサル可カラサ
ル負擔ノ増加スルニ際シ王及ヒ王族ハ唯ニ節約ヲ行ヒ
シハ其ノ大寶ニ國王タルニ相當セザル非常ニ慳吝ヲ行
ヘル一千七百六十二年王ハボッキンガムノ家屋ヲ買上ケテ
之ヲ王后ノ宮殿ト定メタリホレトス、ワルボトル氏之ヲ評
シテセント、ジョームズノ宮殿ハ尙ホ十分ニ狹隘ナリ牢獄
云フ可カラサルガ故ナリト云ヘリ而シテ王ハ此家屋ニ閉
居シ唯奴婢ヲ置クノミニシテ宮廷タルノ華美ヲ毫モ裝
サリキボルク氏曰ク此等ノ事ニ於テ人民ハ唯慳吝ノ所爲
ヲ見ルノミナルニ却テ奢侈ヨリ生ス可キ諸結菓ノ之ニ伴
隨セルアルアリ一物ノ消費セラル、ナク又一物ノ貯蓄セ
ラル、ナシ人民ハ一物ノ貯蓄セラレタルヲモ信スル能ハ

王室年俸金ヲ
散シ以テ議院
内ニ權勢ヲ得
シ

又一物ノ消費セラレタルヲモ見ル能ハサルナリトハ極
メテ慳吝ナリト雖モ尙ホ財ヲ蓄積スルニアラスシテ甚
窮セリ是レ全ク王カ其財ヲ自家ノ党友ニ頒チテ其心ヲ得
此語ハ蓋シ暗ニ之ヲ云ヘルナリ
此ノ如ク外觀ニ於テ非常ノ慳吝ヲ行フニ際シテ王ハ國王
ノ威勢ヲ張リ其權方ヲ確立センガ爲メニ本書第一編ニ論
セシ所ノ夫ノ劇烈ナル抗爭ニ從事セリ故ニ議院ニ於テ王
ノ党友カ忠誠ニシテ且從順ナリシ者ハ全ク王ガ其年俸金
ヲ散シテ之ヲ然ラシメタル者ナリトノ推察ヲ下メザル
ヲ得サルナリ即チ王ハ其從臣ノ爲ニ財ヲ奪ハレタリトス
ルカ若シ然ラサレバ王ハ官位、年金及ヒ其他金錢上ノ誘惑
手段ニ因リテ議院内ノ贊助ヲ購買シタル者ナリト云フ
外ナキノ

一千七百六十
九年王室ノ債
償ノ高

小室王
一千七百六十

一千七百六十九年二月ニ於テ未列王ガ即位後九年ニ至
ラサシテ雖モ王室年俸金中ニ差仕拂ハテカ乏キ所
債償ノ高ハ五十一万三千五百十一磅ニ達シ然レテ而シテ重
禁止ニ至リ得テ此負債ヲ償却セシメテ議院ニ要求セサ
ル可カラザルニ至レリ當時人民ハウルクスノ刑ニ處セラ
ルニ對シテ怒リ朝廷ニ政畧ヲ惡ミ王ガ最も人望ヲ失
リテハ王ガ此要求ヲ爲サントハ決シテ時宜ヲ得ズ
云フ可カラザルナリ然レニ國民ハ此ガ如ク不平ヲ懷
ト雖モ議院ハ王能ク之ヲ籠絡スルヲ得ズ蓋シ議院ニ於
テハ負債ノ原因ヲ調査シ其説明ヲ得ズテ亦夫求テ雖
此ノ如キ調査ヲ行フニ關シテ皆悉ク宰相ノ爲ニ拒
レ遂ニ説明ヲ得ズトナシテ以上ノ金額ヲ供給スル

レ翌年王室年俸金ノ支出方ヲ檢査セシトシテ議ヲ再起
 タリト雖モ前年ノ如ク行ハルヲ得ルキ而シテナシト
 公ノ如キハ國會議員ニ賄賂ヲ行ハシカ爲メニ王室ノ歳入
 ナ消費セシ者死シテ信ヲ公言セリ又ホテ民然
 其著セシ所ノ現時ノ不平ノ原因ト題セル有名ナル冊子
 ニ於テ一天主意ヲ論セシ所ハ王室歳入支出ノ事ト累
 代ノ慣習ニ從テ王室歳入支出ノ理由ヲ議院ニ説明セカ
 シトトヲ痛論スルニテ前キハ何レニテカトテ其
 期ニ過度ノ費用ヲ起シタル原因ハ何レニテカトテ其
 セ尚ホ其原因ハ依然トシテ行ハレテ毫モ制セズル所
 アラサリヤ而シテ爾後八年ヲ經過スルニ後ニ至リ王
 七千七百七十
 七年王室ノ負
 債

其後王室年俸
 一千七百七十

要求セラルルノ進ナシ又其王室年俸金ヲ一年九十萬磅
 増加セシメテ要求セシ此時ニ於テハ其負債ノ理由ヲ説
 明スル所ノ報告書ヲ議院ニ示シ蓋シ宰相ハ最早其報告
 ヲ拒ムコト能ハザリシナリ而シテ此報告ハ政府反對党未
 以テ是レヲ成シタル所ニテ其時議院ニ於テハ再
 辯セ所ナシ費用増加ノ原因ヲ論難シ王歳入ヲ前代諸王
 歳入ト比較シ秘密ニ服務ノ費用増シタル金額ハ巨大
 及ビ年金ノ大増加セシトテ説キ隱然ノ勢力ト勝感
 手段ヲ行ハルコトヲ暗指シ然レテ議院ハ終ニ王
 要求ヲ諾スルニ至レリ而シテ下議院長ワレシヤ
 ン氏カ王ヲ認可ヲ請ハンカ爲メニ其議案ヲ王ニ呈示セ
 時氏ハ王ニ奏言シ曰ク下院ハ今巨大金額ヲ陛下ニ供給

一千七百七十
九年壬寅年俸

スルノミナラス此外ニ毎年ノ歳入ヲ非常ニ増加スル者信
シテ其歳入ハ巨額ナルハ實ニ前例ヲ見サル所ニ豈ハ陛下下
身最多ノ費用ト雖也之ヲ尽ス可能ヲ分ル可キト而シテ議
長以此不敬ノ奏言ハ下院ヲ注目スル所トシテ之ヲ非難
セ致者アリシハ雖也議長ノ朋友タルトシテ其議長ヲ
援ケルヲ以テ終ニ議長ハ巨大ノ負債ヲ政府ニ擔ヒテ時ニ
際シテ下院ハ王室ヲ尊榮シ威儀ヲ維持スルニ熱心ヲ示
スルヲ正當ノ氣力ヲ以テ表示セル者トシテ其爲メ下院ヲ
禮謝ヲ受ケリ然レモ其トシテ此言ハ決シテ朝廷ヲ看
忽タル所トシテ之ヲ以テ翌年ヲ議院ニ送テ其議長ヲ
失職ナルヲ得サ死シ至レバ其トシテ其議員ハ豈由テ
正ノ要求セシ所ハ斯ク速ニ之ヲ諾ムコトト雖也之ヲ爲メ

金ニ關スル討
論

一千七百八十
年ホルク氏ノ
財政改革案

ニ不滿ノ情ヲ挑起シ而シテ此不滿ノ情ハ必シ消滅セサ
シキ蓋シ政府ノ歳費ト國家ノ負債トハ亞米利加戰爭ヲ爲
シテ非常ニ増加シ而シテ此時再ヒ王室年俸金ノ濫費ハ議
院ノ注目スル所トナレバ一千七百七十九年ノ其時公
ハ王室年俸金ノ減額ヲ王ヲ要請セシトシテ議院ヲ起シテ
雖也此議ハ一ニ對スルニ以上又多數ヲ以テ廢棄セラレ
然レモ數日後ニ至リホルク氏ハ財政改革案ヲ提出
セシトテ通知ヲ爲セリ蓋シ氏ハ名ニ此議案ヲ付着シテ衆
ヲ後世ニ遺セリ一千七百八十年二月廿一日氏ハ其精取
ル考案ヲ陳示シテ其間ニ在リ人民ヨリ議院ハ歡願
ヲ爲ス者多ク之ヲ以テ爲メ益々氏ノ論ハ力ヲ副ヘタリ
氏ハ策ハ數多ク官職ヲ廢止シ歳費ヲ節約シ政府諸部局

金に關する情

事務上勘定法トヲ改良スルコトヲ含ミ又氏ハ巧ニ諸事ヲ查
 察シ就中王室年俸金費出ノ事ニ關シテハ最モ精密ニ之ヲ
 穿鑿セリ氏ハ王宮ノ事ヲ論シテ社會及事情ノ變遷ヲ豫見
 シ其宮内官職ノ多ク且尙ホ陳腐ノ性質ヲ保テルコトヲ示
 シタリ氏ノ言ヲ聞ク王宮ハ古昔ノ風俗中於テ威嚴ヲ尊
 崇シテ生ズル時足レ可キ者ハ悉ク之ヲ失ヒ却テ頹廢ヲ出
 直據此野蠻ナル出費トシテ其モ之ヲ廢スルコトヲ示シ而シテ
 ハ浪費ヲ濫用トシ實證ヲ示シ無用ノ官職ヲ除ク本官之ヲ
 行ハズシテ代理官之ヲ行フ所ニ官職ナルヲ王ノ俾僕カ國
 會議員等ヲ設ケルコト各部局等於テ營利浪費官私倫ヲ事
 行ハレテ毫毛之ヲ制セザルコト等ヲ論シタリ氏ハ官職
 ヲ減削及之ヲ合併シテノコトヲ主張シ又年金ノ總額等ハ

一千七百八十
 一年ホルツ氏
 ノ歳費條例案

年六万磅ニ減ス夫此等ノ年金出一切出納局ニ歸テ天拂
 出ルコトヲ以テテ論シタリ夫此等ノ各機關ニ關シテ行ハレ
 ホルツ氏ハ以上ノ諸目的ヲ實行セシムカ爲メニ五等ノ議案
 ヲ提出スルノ許可ヲ得タリ其第一雖モ當期ノ國會ニ於テ討論
 セシ所ハ唯歳費條例案ノ一ニシテ其第二第三第四第五諸會
 議開キ且委員ニ付シテ其諸箇條ヲ討論セシメ又歳費條例案
 結局政府黨ノ爲メニ廢棄セラレタリ然レモ此等ノ討論案
 爲メニホルツ氏ハ公以テ政府財政調査員委員會ヲ設ケ又
 説法爲サシムルニ至レリ
 翌年ニ至リホルツ氏ハ再ヒ此事ニ力ヲ尽シ其歳費條例案
 ヲ提出スルノ許可ヲ得タリ氏ハ其議案ヲ主張スルニ於テ
 彼ノウヰヰアム、ヒツト氏ノ勇膽ナル賛成ヲ得タリ蓋シビ然

一千七百八十
二年ロッキン
ガム公ノ内閣
ノ政略

ト氏ハ此時始テ議院ニ於テ屬目セラレ、所トナリタリ然
レモ此議案ハ第二讀會ニ於テ廢棄セラレタリキニ
然ルニ此疑問成敗ノ景況俄ニ一變セリ蓋シロッキンガム公
ノ内閣ハ財政改革ノ主義ヲ執ル者ニシテ今ヤ此事ヲ實行
セントノ決心ヲ以テ官ニ就テ公ニ自家ノ考案ヲ王ニ奏
示シ且説明シテ曰ク今節減セント欲スル所ハ歳費ノ諸科
目ニテモ陛下ノ一身若クハ王族ニ關スル所ノ費用ニ及
ナシヨシ然ラストスルモ朝廷ノ威嚴ヲ助ケル如キ費用
ハ毫毛及フナシト且曰ク此歳費ノ節約ハ實ニ諸根ノ特典
ト權勢トヲ削ラヌト欲スルガ爲メナラズト一千七百八
十二年四月十五日王ハ公費ノ各科目ニ節約ヲ行ハント
德憲及且政府ノ文治ニ屬スル歳出ヲ改革シ之ヲ制規ト立

一千七百八十
二年王室ノ負
債

ツルノ議ハ王ニ於テ既ニ之ヲ熟考シタル旨ヲ述フル所
一書ヲ上下兩院ニ送レリ左ノハ政府ノ政略ト王ノ人民
對スル有様トニ於テ此ノ如キ好變化ヲ呈シタルヲ見テ
ルク氏カ下院及ヒ邦國ニ向テ之ヲ祝セシテ亦宜ク云
フ可シ兩院ニ於テハ王ノ此通知ヲ受ケテ誠實ニ之ヲ承認
セリ之ニ次キ王ハ直ニ他ノ通知ヲ議院ニ與ヘタリ此通知
ハ前回ノ通知ノ如ク満足ス可キ者ニアラズト雖モ尙ホ前
回王カ德憲セシ所ノ財政節約ヲ行フノ必要ナルコトヲ証
スル者ト云フ可シ
蓋シ王ハ今ヤ再ヒ王室年俸金中ヨリ仕拂ハサル可カラセ
ル所ノ負債アルコトヲ議院ニ通知セサルヲ得サルニ至レリ
然レモ從前ノ如ク政府一般ノ歳入中ヨリ此負債ヲ仕拂ハ

一千七百八十
二年ノ王室年
俸金條例

シヨヲ求メスシテ王ハ其王室年俸金ノ額ヲ減セント欲ス
ルカ故ニ斯ク王室年俸金ニ減スル所ヲ以テ以上ノ負債ヲ
仕拂フニ足ルベキコトヲ述ヘタリ而シテ發ニ王室年俸金
額ヲ加ヘタルニモ拘ハラヌ王室負債ノ高ハ二十九万五千
八百七十七磅ニ達セリ故ニ王ハ費用ヲ節減セシムヲ達示
シタリト雖モ斯ク節減セシ所ノ金額ハ王ノ利率モ等ラズ
又邦國ノ利率モナラヌシテ其金額ヲ移シ以テ逐年負債
仕拂ニ供セサル可カラサルコトナレリト云フ
ロッキンガム公ハ王室年俸金議案ハホルン氏初ノ策ニ
此スレハ稍々及カサル所アリト雖モ尙呆之ヲ稱シ且著次
ノ一議案ナリト云ハサル可カラサルナリ蓋シ此議案ニ於
テモ數多ノ無用官職ヲ廢シ秘密ノ服務ヲ爲スニ通貨ヲ

ジョージ三世
ノ其後ノ負債

支出スルコトヲ禁ジ年金ヲ科目ヲ減シ王室費用ヲ更ニ有
効ニ監督スルノ方法ヲ設ケタリ而シテ此時始メテ王室費
ヲ支出ヲ分テ八科目トナセリ此事ハ後來ニ於テ更ニ緊要
ナル變革ヲ生セシムルニ至レリ然レモジョージ三世ノ治世間ニ於テハ終始負債ナキ時
然レモジョージ三世ノ治世間ニ於テハ終始負債ナキ時
ラヌシテ王室年俸金ニ負債ヲ擔スハ實ニ其常狀ニテアリ
キ故ニ王カ負債ヲ償却ヲ議院ニ要求セシメ幾回ナルヲ知
ラスシテ一千七百八十三年以後時々仕拂ヒタル負債額合
高ハ二百三十万磅ニ達セリ而シテ王ノ一世間議院ニ於テ
仕拂ヒタル諸負債ノ合高ハ三百三十九万八千磅ニ達シ此
外一千七百八十三年ニ於テ王室年俸金ニ課シタル三十万
磅ノ負債アリタリ

國王世襲歲入ノ剩餘高

斯ノ費用ノ常ニ超過セシトテ辯解センカ爲メニ王カ曩キニ捐棄シタル國王世襲歲入ノ剩餘高ハ以テ此等ノ費用超過ヲ償フニ餘リアルヲ説キタリ蓋シテ千八百十五年於テ國王世襲歲入ノ剩餘高ハ王ノ即位以來ヨリ王室費用ノ全額ニ超過スルコト六百万磅以上ニ出テタリ但シ茲ニ所謂王室費用ノ全額ハ議院ニ於テ仕拂ヒタル負債ノ高及ビ後年ニ至リ王室年俸金中ヨリ仕拂フヲ要セザルヨトナリタル諸金額ヲモ合算セザル者ト知ル可シ當時ヨリ在リタハ國王ノ一身ノ快樂及ヒ威嚴ニ毫モ關係セサルノ費用ト雖モ尙ホ常ニ之ヲ王室年俸金中ヨリ仕拂フタリ例ヘハ裁判官ノ給料、公使及ヒ其他政府官吏ノ給料、王族ニ與フルノ年金、國家ニ勳功アリシ者ニ與フルノ年金ヲ

王室年俸金中ヨリ仕拂フ可キ金額ヲ輕減スルコト

攝生者ノ時王室年俸金ニ關シテ規則ヲ立ツルコト

如キハ之ヲ王室年俸金中ヨリ仕拂ハシヨリハ寧ロ政府歲入中ヨリ之ヲ仕拂フコト適當ナリト雖モ尙ホ之ヲ王室年俸金中ヨリ仕拂ヒタリ然レモ此等ノ諸費ノ多クハ時々其負擔ヲ解テ之ヲ王室年俸金中ヨリ仕拂フヲ要セザルコトトナセリ而シテヨリヨリ三世ノ即位以來一千八百十五年ニ至ルマデ斯ク王室年俸金中ヨリ仕拂フニキ負擔ハ高ク減シタル總高ハ九百五十六万一千三百九十六磅ニ達セリ

攝政(按)子カ攝政者トナリシ時ノ事ヲ云ク太ノ第一年ヲ經過セル後即チ一千八百十二年ニ於テ更ニ一ヶ年七万磅以金額ヲ王室年俸金中ニ加ヘ又別ニ十方磅ノ金額ヲ攝政者ニ供給セリ一千八百十六年ニ至リ王室年俸金チ二百零八万三千七百二十七磅ト定メタリ此金額中ニハ王ノ費用ヲモ

ジョージ四世
即位ノ時ノ王
室年俸金

合ムモノトス而シテ此時又王室年俸金費出ノ事ニ關シテ
更ニ規則ヲ設ケ王族ニ與ル所ノ年金ノ幾分ハ之ヲ王室年
俸金中ヨリ仕拂フヲ要セサルコトナシ費用ノ各科目ニ關
スルノ仕拂ハ一々確定シテ之ヲ監督シ且王宮ノ諸費用ハ
王室費検査官ト稱スル大藏省ノ一官吏ヲシテ之ヲ監督檢
査セシムルコトナセリ
ジョージ四世ノ即位スルハ及ヒ王ハ會テ攝政者トシテ受
ケシ所ヨリモ更ニ巨額ノ王室年俸金ヲ得テコトヲ期望シテ
リト雖也遂ニ宰相ノ忠告ト諫諍トヲ容レ王ハ其演說ヲ於
テ新々ニ人民ニ負擔ヲ課スルヲ如キコトヤ其何事ヲモテ問
ハス之ヲ欲セサルノミナラズ議院カ一千八百十六年ニ於
テ定メタル王室年俸金ノ制規ハ毫モ之ヲ改ムルヲ望ミ

國王ノ他ノ歳
入

ウリアム四
世ノ王室年俸
金

ル旨ヲ述ヘタリ
今ヤ前王ノ時ノ如ク王室年俸金中ヨリ巨額ノ費用ヲ給ス
ルヲ要セサルカ故ニ議院ハ之ヲ減シテ八十四万五千七百
二十七磅下定メタリ然レモ王ハ其治世間ニ於テ此王室年
俸金ノ外ニ蘇格蘭ニ屬スル所ノ國王世襲ノ歳入ヲ受ケ而
シテ其額ハ平均一ケ年十萬九千磅ニ達シ又愛爾蘭ニ屬ス
ルノ王室年俸金トシテ一ケ年二十五万磅ノ歳入ヲ受ケタ
リ王ハ又國王及ヒ海軍省ノ沒收權ヨリ生スル諸歳入四分
五厘ノ租稅西印度ノ租稅及ヒ其他議院ノ管轄外ニ在リテ
國王ノ權ニ屬セン所ノ偶然生出ノ諸歳入ヲモ受ケタリ
ウリアム四世ノ即位スルニ及ヒ王ハ始テ以上國王ニ屬ス
ル諸歳入ヲ悉ク捐棄シ唯一ケ年五十一萬磅ノ王室年俸金

ノミヨ甘ンシタ爾後此王室年俸金ノ支出方々之ヲ五科
 目ニ分チ各科目ニ分テ一年ノ費用ヲ指定セリ而シテ年
 金ニ供スル費途ノ如キモ其科目ノニシテ其金額ヲ一ケ
 年七萬五千磅ニ定メタリ又之ヲ同時ニ從來王室年俸金中
 ヨリ仕拂ヒタル諸費用中適當ニ政府ノ費用ニ屬ス可キ者
 ハ之ヲ王室年俸金中ヨリ仕拂フヲ要セサルヲ示セリ即
 チ裁判官ノ給料、外交官ノ給料及ヒ年金、其他數多ク諸雜費
 ノ如キハ凡テ此類ノ費用ニシテ裁判官ノ給料及ヒ如キハ從
 來一部ハ王室年俸金中ヨリ仕拂ヒ一部ハ「ゴツ」並テ「
 ヲツト、フオント」ト稱スル公債償却資金ノ中ヨリ仕拂ヒ又一部
 ハ裁判所手数料中ヨリ仕拂ヒタルモノト示シテ然レモ然
 然レモ以上ノ方法ヲ決スル前ニ先ツ王室年俸金費途ノ計

算ヲ下院ノ秘密委員ニ付シテ之ヲ調査セシムルニ至リ
 リ而シテウヰリシトシ公ノ内閣ハ此調査ヲ行フヲ拒ミタ
 ルカ爲メニ其職ヲ失ヒシカ故ニ王室年俸金取事ハ續テ内
 閣ニ入リシ所シテ公ノ民權黨ノ諸宰相及於之ヲ定
 ムルコトナレリ委員ハ其調査ヲ行フニ於テ宮内ノ事ヲ詳
 密ニ穿鑿スルハ陛下ニ對シテ禮ヲ失フ者ナリト思惟シ
 ト雖モ尙ホ諸種政府官吏ノ給料ヲ減シ總計ニ於テ一萬
 千五百二十九磅ヲ節セシコトヲ唱ヘタリ然レモ王此節減
 ノ説ニ抗シ宰相ニ向テ之ヲ論シテ曰ク議院改革條例ニ從
 ヒ人民ニ於テ果シテ下院ヲ管制シ又下院ニ於テ朕カ朕ノ
 政臣ニ與フル所ノ給料ノ額ヲ是非スルニ至ラハ國王ノ特
 權ハ實ニ人民ノ手ニ移リテ立君政治ノ實ハ存スルヲ能ク

女王ヴィクトリアノ王室年俸金

ナルヘシト而シテ宰相ハ王ノ此論ニ從ヒテ下院ヲシテ王室年俸金ヲ最初ノ額ニ復セシメタリ
女王ヴィクトリアノ王室年俸金ノ如キモウリアム四世列王
室年俸金ト同一ノ主義ニ據テ之ヲ定メ其金額ヲ三十八萬
五千磅トナセリ唯二王ノ王室年俸金中著ルシ互相異ハ
ノ點ハ女王陛下ハ前王ノ如クニ一ケ年七万五千磅ノ金額
ヲ年金ノ給與ニ充ツルヲ得スニテ斯ク年金トシテ給與シ
得ヘキ金額ヲ一千二百磅ニ限ラレタルニ是レナリ而シテ
此方法ニヨリ國王ハ其威嚴ヲ維持スル爲メ又ハ自家一身
ノ快樂ノ爲メ單ニ一定ノ年金ノ外ニ之ヲ與フル能ハ
ルコトナリタリ
我女王陛下ノ世ニ於テモジョージ四世及ヒウリアム四世

三治世ノ間王

室ノ負債ナカリシ
王室年俸金ニ課シタル餘分ノ負擔ヲ除クノ緊要ナルコト

ノ時ニ於テモ曾テ王室負債ノ償却ヲ議院ニ要求セシメ
ラサリシノ一事ハ之ヲ茲ニ記セサル可カラス是レ蓋シテ
ハ以テ以上ノ方法ノ宜シキヲ得タリト証スル可ク又
ニハ近代ノ諸王ノ施政ノ改良セシメテ証トモス可ク
ナリ
王室年俸金ノ額ノ斯ク減セシト同時ニ從來王室年俸金中
ヨリ仕拂ヒタル諸種ノ雜駁ナル負擔ヲ除キタリ故ニ復
タ王室年俸金ノ使用ニ關シテ疑惑ヲ入ルコト地ナキニ至
リ國王ハ前代ニ於テ行ハレタル秘密ノ權勢ヲ廢棄シタル
カ故ニ私曲ヲ行ヒタリトノ非難ヲ受クルノ患ナシ政府ノ
費用常ニ増加スル時ハ以前ニ在テハ國王爲メニ非議ヲ受
ケサルヲ得サリシト雖モ今ヤ下院獨リ其責任ニ當ル所ト

ハノーヴルノ領地ヨリ生スルノ歳入

ランカスター及ヒコロンウオールノ公領

ナレリ而シテ他ノ憲法上ノ進歩ニ於ケルカ如ク此點ニ關シテモ陽ニ國王ノ權ヲ蠶食シタルカ如ク雖モ實ニ其真正ノ威嚴ヲ加ヘ國王ハ往時ニ比スレハ一層人民ノ信用ト忠愛トヲ得ルニ至レリ
我女王陛下即位ノ時マデハハノーヴルノ家累代ノ諸王ハハノーヴルノ王室ヨリ分離セリ又前代ノ諸王ハ何レモ先王ヨリ巨額ノ不動産ヲ讓受シタリト雖モ女王陛下ハ毫モ之ヲ讓受スルコトナカリキ然レモランカスター及ヒコロンウオールノ公領ヨリ生スル所ノ歳入ハ尙ホ王室ニ於テ之ヲ保存セリ前者ハ在位國王ノ所有ニシテ後者ハコロンウオールノ資格ニ因リテウエールス太子ニ屬スル所ノ世襲財産ナ

ランカスターノ公領ヨリ生スルノ歳入

コロンウオールノ公領ヨリ

リトス而シテ此等ノ公領ハ管理ノ宜キヲ得タルト焦慮セテ國王ノ利害ニ注意スルトノ故ヲ以テ共ニ大ニ其價格ヲ増加セリ
女王陛下ノ世ノ初年ニ於テランカスターノ公領ヨリ生スル歳入ノ總額ハ二万三千零三十八磅ニシテ其費用ハ一万四千二百二十六磅ナリシカ故ニ此費用ヲ歳入總額ヨリ扣除スル時ハ差引八千九百十二磅餘ノ歳入純高ヲ得シナリ然ルニ一千八百五十九年ニ至リ其歳入總額ハ四万五千四百三十六磅ニ増加シ其歳入純高ハ三万一千三百四十九磅トナレリ而シテ此純高ノ中二万五千磅ハ之ヲ女王陛下ノ私家ノ金庫ニ納メタリ
按シヨシカ一千七百八十三年ニウエールス太子シヨード四世ヲ指ス

生スルノ歳入

於テ丁年ニ達セシ時ニ當リコロンウオトルノ公領ヨリ生スル歳入一万年一万二千磅以下ナリキ女王陛下ノ位ニ即クニ及ビ此公領ノ歳入総額ハ二万八千四百五十六磅ニシテ其費用ハ二万二千六百七十磅ナリシヲ以テ差引ニ万五千七百八十六磅ノ歳入純高ヲ得タリ然ルニ王夫（按）王夫トハハルベルト云フ即チグロッドリアノ夫ナリ之レヲ管理スルコト宜シキヲ得タリカ爲メニ一千八百五十九年ニ至リ其歳入総額ハ六万三千七百零四磅トナリ其純入高ハ五万零七百七十七磅トナレリ而シテ此中四万零七百八十五磅餘ノ金額ハウチールズ太子ノ財監及ヒ會計司コ之ヲ納メタリ前代ノ諸王ハ其豫定ノ後嗣（按）豫定ノ後嗣トハ先王在世ノ時ヨリ王位繼承シテ權ヲ未可年手ル間ハ此公領ヨリ生スルノ歳入ヲモ自カラ

國王ノ私家財産

叔メタリト雖モ女王陛下下至テハ之ヲ拒ミテ叔メテ亦寛惠シ行キト謂フ可シ而シテ此豐澤ナル歳入ヨリ蓄積セシ所ノ金額ハ五十万磅以上ニ達シ此金額ハ太子ノ將來ノ利用ヲ謀リ利益ヲ生スル方法ヲ以テ之ヲ貯藏セリ以上公給ノ歳入ノ外ニ國王カ其私家ノ財産ニ對スル權シ如キモ亦之ヲ安全ナラシメタリ王家ノ土地ノ歳入ヲ讓渡スルコトハ女王アンノ第一号ノ條例ヲ以テ之ヲ禁スル所ナリガ後年ニ至リ此條例ノ禁制ハ賣買惠與遺贈相續等ニ因テ英國ノ國王若クハ女王ヲサレ人ヨリシテ國王其私家ノ財産ヲ得タル場合ニモ及之ニキヤク疑問起レ然レモ斯ノ如キ禁制ハ固ヨリ毫モ正理ニ合ハサル所ナレバ以テ一千八百年ニ至リ一條例ヲ制定シ以上ノ方法ニ因テ

王族俸給金

得タル國王ノ財産ハ臣民ニ屬スルノ所有品ト同シク隨意ニ之ヲ受授スルヲ得ルコトヲ布告セリ然ルニジョージ四世ソ即位スルニ及ヒ現在ノ國王カ其王位ニ即ク以前ニ得シ所ノ所有品ノ如キモ亦此條例ヲ以テ推ス可キヤ否ヤソ疑問起リシト雖モ一千八百二十三年別ニ令ヲ發シテ此疑問ヲ定メタリ

王室年俸金ハ國王一身ノ威嚴ヲ維持スルニ十分ニシテ此外又議院ハ王族諸員ノ維持ヲ爲メニ寛大ノ供給ヲ爲セリ即チ王后ニハ別ニ年金ヲ奉給シ且國王ノ殂スルコトアルニ於テハ巨額ノ贈呈ヲ爲シ又國王ノ兄弟姉妹及ヒ其他ノ近親ニハ各々年金ヲ奉給シ又諸王子ニハ其丁年ニ達スルニ至リ各々之ニ定額ノ費ヲ奉給シ又王家ノ諸女子ニハ其婚姻

ウエールス太子ノ負債

料ヲ奉給セリ王室カ王室年俸金ノ外ニ議院ニ要求スル所則チ此ノ如キナリ且ジョージ三世ノ時ニ於テハ此外ニウエールス太子(按)ジョージノ負債ヲモ加ヘサル可カラサルナリ

蓋シ太子カ一千七百八十三年ニ於テ其丁年ニ達スルヤ當時ノ有様ハ國庫ニ向テ多額ノ要求ヲ爲サンニハ頗ル不都合ノ時ナリト云フ可シ人民ハ當時尙ホ亞米利加戰爭ノ爲メニ累積セシ所ノ負擔ニ苦ミ且王室年俸金濫用ノ事ハ幾ニ世ニ暴露セリ然ルニ夫ノ聯立内閣ヲ組織セル所ノ太子ノ民權党ノ朋友ハ以上ノ事情ヲモ顧慮セステ一ケ年十萬磅ノ金額ヲ奉給セシコトヲ開陳セリ實ニ諸宰相ハ此機ニ乘シテ豫定ノ後嗣ト其政治上ノ親和ヲ鞏固ニセンコトヲ喜

ヒシナリ然レモ當時ノ事情ニ於テ此ノ如キ處置ニ出ツル
 ノ非ナルコトハ諸宰相ヨリモ却テ王按三世ヲ指ス能ク之レヲ
 知レリ且王ハ自家ノ權力ヲ貪リ太子ヲ愛スルヲ薄ク又大
 ニ諸宰相ノ惡ミシヲ以テ太子ヲシテ獨立セシメ且之ヲ
 テ王ノ最モ惡ム所ノ政党ト親和セシムル如キ方法ト一致
 スルコト能ハサルナリ故ニ王ハ自家ノ王室年俸金ノ既ニ其
 費用ニ充ツルニ足ラサルニモ拘ハラヌ尙ホ此内ヨリ十
 年六万磅ヲ太子ニ與ヘンコトヲ諾シ太子ヨリ議院ニ要求
 得可キ金額ヲ六万磅ノ特別ナル補助額ノミニ制限セリ蓋
 シ謹慎ナル太子ニ取リテハ此ノ如キノ配與ヲ得ハ十分ナ
 ルヘシト雖モ放蕩ニシテ且賭博ニ耽ル所ノ太子ニ取テハ
 此等ノ配與ハ一少額ニシテ故ニ太子ハ速ニ困難ニ陷リシム

マクットノ賭博者及ビセシト、シムスノ欺瞞者ニ名譽ノ
 負債按名譽ノ負債トハ至極粗畧ノ證書ヲ以テ借受ケタル
 負債ヲ云フ賭博場ノ貸借等ハ凡テ此方法ヲ以テスル
 モノナリ仕拂ヒタル後ハ殆ント誠實ノ商人ニ給ス可キノ殘
 額ヲ餘サ、ルナリ一千七百八十六年王室年俸金ヲ改正ス
 ルニ當リ太子ノ黨友ハ再ヒ一層多額ノ奉給金ヲ太子ニ得
 セシメントテ勉メタリト雖モピット氏無情ニ之ヲ容レズ
 王亦之ヲ拒ミテ動カス可カラサリキ因テ太子ハ其定額費
 チ廢シタリト雖モ尙ホ其負債ヲ償フニ足ラサリキ
 一千七百八十七年太子ノ有様切迫如何トモス可カラサル
 ニ至リシカ此時倫敦府ノ長老役ノ一人ノ親懇ナル仲裁ニ
 ヨリ幸ニ太子ノ零落ヲ救フヲ得タリ蓋シ長老役ノ一人ナ
 ルニコウハム氏ハ下院ニ於テ太子ノ負債ノ事ヲ王ニ奏陳セ

ントノ通知ヲ爲シタリシニ此事ハ太子ノ黨友ノ大ニ贊ス
 ル所トナリシヲ以テ王ニ於テモ協和ノ談判ニ出ルヲ良策
 ナリト思惟セリ是ヲ以テ王室年俸金中ヨリ更ニ一ケ年一
 萬磅ヲ分テ之ヲ太子ノ歳入ニ加ヘ又議院ニ於テ太子ノ負
 債償却ノ爲メニ十六萬一千磅ト其カールトノ、ハウズノ宮
 殿ノ爲メニ二萬磅トヲ供給スルトニ決セリ爾後議院ニ於
 テ巨費ヲ要スル所ノ此宮殿ノ建築ヲ成就セシメシカ爲メ
 ニ時々供給セシ金額ノ總計ハ六萬三千七百萬磅ト下ラサ
 リキ此宮殿ハ華美壯麗ヲ極メシト雖モ甚々風致ニ乏シカ
 リシカ僅カニ二十五年餘ヲ經過シテ都府ノ改良ヲ行フ爲
 メニ其地面ヲ要セシヲ以テ之ヲ破壊セサル可カラサルニ
 至レリ王ハ太子カ爾後其歳入ノ金額内ニ費用ヲ制限スル

トヲ約シタル旨ヲ下院ニ証言シタリト雖モ太子ハ此等ノ
 良目的ヲ履行セサリシノミナラス一千七百九十五年ニ至
 リ其負債ノ三十七萬磅ニ登リシトマラムスアリト公ニ
 自カラ明言シタリキ一千七百九十五年ニ至リ其負債ハ更
 ニ増加シテ六十五萬磅ノ巨額ニ達セシヲ以テ止ムヲ得ス
 プランスウヱックノカロリント彼ノ不幸ナル婚禮ヲ行ヒ爲
 メニ右負債ノ困難ヲ免ル、ヲ得タリ蓋シ議院ニ於テ此等
 ノ負債ヲ償却センカ爲メニ金額ヲ贈呈スルカ如キハ固ヨ
 リ論外ノ事ニシテ決シテ行フ可カラサル所ナリト雖モ議
 院ハ別ニ一ケ年六万五千磅ノ金額ヲ太子ノ年金ニ加ヘタ
 リ而シテ多年ノ間ハ此等ノ金額ハ殆ント全ク之ヲ負債ノ
 償却ニ充テタリ一千八百三年ニ至リ更ニ六万磅ノ金額ヲ

政府ニ代リテ
土地ノ歳入ヲ
管理スルノ方
法其宜シキヲ
得サリシヲ

太子ノ歳入ニ加ヘ之ニ因テ始テ其負債ヲ完償スルコトヲ得
タリ少年ノ間過度法外ノ事ヲ喜ヒタル放蕩ナル此太子ハ
老年ニ至リ公費ヲ以テ宮殿ヲ建築修繕スルコトハ尙ホ之ヲ
好ミシト雖モ自家ノ財産ハ極メテ之ヲ吝愛シ殆ト守錢奴
ノ狀アリキ
爾後議院ハ王族ノ各員ニ對シテ適當ノ金額ハ喜メテ之ヲ
供給セリ而シテ王族カ其負債ノ償却ヲ議院ニ要求シテ議
院ノ寛大ナルヲ輕視スルカ如キコトハ復タ之ヲサリキハ
シヨ一ツ三世カ國王所屬ノ土地ヨリ生スル歳入ヲ政府ニ
讓リテ其代償トシテ一定ノ王室年俸金ヲ受ケタルコトハ既
ニ之ヲ記シタリ然レモ此等ノ歳入ヲ管理スルノ方法其宜
シキヲ得サリシカ爲メニ政府ハ其正當ニ享有シ得ベキ利

益ノ大半ヲ久シク失ヒタリ蓋シ土地貸渡証ヲ付與スルコト
ハ不正ノ方法ヲ以テシタリ假令不正ノ方法ヲ以テセザル
云フヘガラサルモ濫リニ之ヲ付與シテ毫モ慮ル所アラサ
リシナリ故ニ往々土地ヲ測量セサルコトアリシノミナラス
甚タシキハ王有地ノ監督官ニ於テ國王ノ爲メニ土地貸渡
証ノ寫書ヲ保存スルヲ爲サレトアリキ又貸渡証ノ切替
ヘハ借地人ノ望ニ應シテ猥リニ之ヲ許容シ且諸役所ニ仕
拂ヘキ所ノ高價ノ借地謝銀ハ之ヲ借地人ニ課セヌシテ土
地讓渡認許料中ヨリ之ヲ引去リタルヲ以テ王室ノ歳入ニ
對シテ苛重ノ負擔トナリタリ斯ノ如クニシテ少ナクモ土
地價格ノ八分ノ七ハ土地讓渡認許料トシテ之ヲ受取リシ
者ニシテ借地料トシテ受取リシハ僅ニ八分ノ一ニ過キサ

ルナリ而シテ此等ノ土地讓渡認許料ハ高價ノ利息ヲ以テ
 之ヲ算シタルカ故ニ更ニ王室ニ納ムヘキノ金額ヲ減シタ
 リ(按)土地讓渡認許料ヲ前拂スルハ高價ノ利息ヲ以テ之
 ヲ算セシ者ト見ヘタリ斯ク土地讓渡認許料ヲ受取ルニ
 高價ノ利息ヲ以テ之ヲ算シ其利息ノ高ヲ扣除
 スルカ故ニ受取ル所ノ金額ハ大ニ減スルナリ
 王有地ヲ蠶食シ又ハ之ヲ荒廢スルト頻リニ行ハレテ殆ト
 之ヲ制スルコトアラサリキ然レモ此ノ如ク管理ノ宜シキヲ
 得サリシ者ハ政府ノ利益ヲ守護セシムルカ爲メニ任セシ
 所ノ官吏ノ數ノ少ナキニ因ルニアラスシテ反テ其數シ多
 キカ爲メニ詐偽騙瞞ヲ行ヒ易カラシメタリ此等ノ官吏ハ
 互ニ檢束シテ相戒ムルコトナク各自別々ニ事ニ當リタリ而
 シテ其無職無能ニシテ且懶惰ナルカ爲メニ大ニ其委托セ
 ラレタル土地ヲ荒廢セシムルニ至レリ當時ノ制度ノ如何

ナリシ乎ヲ証ス可キ一例トシテ一人ノ土地拜領者ニシテ
 再度地稅ノ配與ヲ得シコト屢々之アリシトノ事事實ヲ茲ニ
 記ス可シ而シテ此等ノ錯誤ノミヨリ生ズルノ損失ト雖モ
 一ケ年一千五百磅以上ニ登リタリキ且夫レ斯ノ如ク管理
 ノ方法ヲ失スルコトナシトスルモ王有地ハ各所ニ散在セル
 ヲ以テ監督及ヒ取扱ノ費用隨テ多カラサルヲ得サザナリ
 以上種々ノ原因アリシヲ以テジョージ三世即位以來二十
 五年ノ間ハ王室ノ良美ナル土地ヨリ生ズル所ノ歲入純高
 ハ一ケ年平均六千磅ニ過キサリキ一千七百八十年ボルク
 氏ハ此等ノ弊害ノ或ル者ヲ暴露シ且氏ハ之ヲ救フノ策
 ヲ悉ク王室ノ土地ヲ賣拂ハンコトヲ説キタリ一千七百八十
 六年ニ至リ王ハピット氏ノ助言ヲ採リ王室ノ森林及ヒ土

地ノ實況ヲ調査セシメテ從憲スル所ノ書ヲ議院ニ送リタ
 リ故ニ右ノ調査ヲ行ハシメ且管理ノ方法ヲ改良スル策
 ナ立テシメノカ爲メニ條例ヲ以テ其委員ヲ選任シタリ而
 シテ此等ノ委員ノ職ニ從ヒ遂ニ一千七百九十四年ニ至リ
 一條例ヲ制定シ此條例ニ由テ土地ノ歲入ヲ管理スル方
 法ヲ改良シ且其歲入ヲ増加スルノ手段ヲ行ヒタリ委員ハ
 其說ヲ報告シテ曰ク從來彼レノ如ク些少ノ歲入ヲ生シタ
 ルノ土地ト雖モ改良セル管理法ヲ行ハニ於テハ或ハ一カ
 年四十万磅ニ下ラザル歲入ヲ生スルニ至ルヲ望ムニ然レ
 且當時ノ制度ニ因テ現ニ利益スル所ハ人々又欲故ニ一
 朝ニシテ改革ヲ行フヲ難クニ時ノ間ハ右委員ノ好望ヲ屬
 セシ豫算ヲ實取スルヲ能ハサリシガ故ニ一千七百九十八年

王室ノ土地ヨ
 リ生スル歲入
 ノ支消

ニハ王室ノ土地ノ價格ハ二十萬零三千二百五十磅トナリ
 一千八百十二年ニハ其價格ハ二十八萬三千一百六十磅ト
 ナリ一千八百二十年ニハ現ニ十一萬四千八百五十二磅ト
 歲入ヲ生シ一千八百三十年ニハ三十七萬三千七百七十磅
 ノ歲入ヲ生シ終ニ一千八百六十年三月一日ヲ以テ終ル所
 ノ一週年度ニ於テハ四十一萬六千五百三十磅ノ歲入ヲ生
 スルニ至リタリ
 然レモ王室ノ土地ヨリ生スル歲入ノ殆クハ王室年俸金ノ
 額ト同一ノ高ニ達シタル後ト雖モ尙ホ此等ノ歲入ノ大部
 ハ之ヲ出納局ニ収ムルヲ能ハサリシナリ蓋シ從來王室ノ
 土地ト森林トハ各々之ニ屬スルノ監督官アリテ其事務ヲ
 取扱ヒタリト雖モ一千八百十年ニ至リ土地及ヒ森林ヲ管

理スル所ノ委員ヲ設ケテ此二役ヲ合併セリ一千八百三十
 二年ニ至タリ右委員ヲシテ更ニ土工監督ノ事ヲ兼テシ
 メタリ是ヲ以テ委員カ右手ニ受取リシ所ノ金額ハ直ニ左
 手ヲ以テ之ヲ消費スルノ弊害ヲ見ルニ至レリ即チ王室ノ
 所有品ヨリ生スル所ノ歳入ハ直チニ之ヲ土工及ヒ其他ノ
 改良事業ニ消費スルノ患アリキ故ニ出納局ハ王室年俸金
 ノ代償トシテ受領セサル可カラサル所ノ資金ヲ受領スル
 一能ハスノ議院ハ其當然ニ監督スヘキ公費中ノ緊要ナル
 一科目ヲ監督スルノ權ヲ實際ニ有セザリキ而シテ此等ノ
 弊害ヲ匡救センカ爲メニ事務取扱上ニ更ニ變革ヲ行ハカ
 ル可カラサルニ至レリ故ニ一千八百五十一年ニ至リ再ヒ
 森林及ヒ土地ヲ管理スルノ局ト土工ヲ管理スルノ局ト夫

王室年俸金中
 ヨリ仕拂フ所
 ノ年金

王室ノ土地ニ

分離セシチ以テ爾來ハ王室ノ所有品ヨリ生スル純入高
 ハ其何タルヲ問ハス悉ク之ヲ政府ノ歳入トナシ土工ヲ爲
 メニ要スル所ノ金額ハ凡テ議院ニ於テ政府一般ノ歳入中
 ヨリ之ヲ供給スルコトナレリ
 王室年俸金中其大部ハ年金ヲ與ヘンカ爲メニ之ヲ消費ス
 ル者ニシテ此事ハ獨リ今代ヲ除クソ外ハ累代皆然リシ所
 ナリ而シテ王室ニ於テ年金ヲ與フルハ是非ハ屢々政治上
 ノ問題トナリシ所ナルチ以テ茲ニ從來年金ヲ與フルニ於
 テ證據セシ所ノ法律ト習慣ト及ヒ此等ノ年金ヲ如何ナル
 資金ヨリ生スル乎トナ簡單ニ説明スルハ決シテ憲法上ノ
 考察ニ利益ナシトセサルヘシ
 女王アンノ時以前ニ在テハ國王ハ其世襲歳入中ヨリ恩賞

年金給與ノ負擔ヲ課スルヲ禁スルヲ

國王世襲ノ歳入ヨリ仕拂フ所ノ年金

及ヒ年金ヲ與フルノ權ヲ行ヒ且ツ國王ニ於テ此ノ如ク年金給與ノ負擔ヲ其世襲歳入ニ課スル時ハ國王ハ其繼續者ヲシテ之ヲ遵守セシムルノ權アリトシ説行ハレタリ然レト一十七百一年ニ於テ女王アンソ即位スルニ及ヒ議院ハ始テ王室ノ土地ヲ讓渡スルヲ禁シ此時又議院ハ國王ニ於テ王室世襲ノ歳入ヲ讓與スルモ其期限ハ國王ノ一生間ヲ限リトシ決シテ此期ヲ超ユ可カラズト制定セリ然レト右ノ條例ハ英蘭ト蘇格蘭トノ合併以前ニ制定セル者ナレハ此條例ハ蘇格蘭王室ノ世襲歳入ニ及フモノニアラザルナリ又愛蘭ノ國會ニ於テモ之ト同一ノ條例ヲ設ケテ愛蘭王室ノ世襲歳入中ヨリ年金ヲ與フルヲ禁セシメ未タ之アラサルナリ又以上アンソノ條例ハ夫ノ四分五厘ノ

ジョージ三世ノ王室年俸金中ヨリ仕拂ヒタル年金

租税ニ及フ者ニ於テ此條例制定後ハ唯ク在位國王ノ一生間ニ限リ英蘭ノ王室世襲歳入中ヨリ年金ヲ與ルヲ得ル者ナリト雖モ尙ホ實際ニ於テハ斯ク先王ノ與ルヘシ所ノ年金ハ諸王即位ノ初メニ於テ改メテ之ヲ與ルルヲ習慣ナリキ又蘇格蘭及ヒ愛蘭ノ王室世襲歳入ノ四分五厘ノ租税トヨリ仕拂フ所ノ年金ハ其拜受者ノ一生間ニ續テ之ヲ與ヘタリトシテ其後ハ大英帝國ノ王室年俸金ヲ受クルノ代償トシテ英蘭ノ王室世襲歳入中大額ヲ捐棄セシメ以テ從來世襲歳入中ヨリ仕拂ヒタル年金ハ爾後王室年俸金中ヨリ之ヲ仕拂フコトナレリ而シテ苟モ王室年俸金ヲ以テ其仕拂ニ應シ得ヘキ限リハ別ニ年金ノ高ニ制限アルナ

世人年金ヲ嫉
惡スルヲ

ク又年金ヲ與フルハ一ニ國王ト其助言者トノ意志ニ因ル
者ニシテ別ニ之ヲ制スルノ規則アラサリシナリ
國王ニ於テ年金ヲ授與ス可キ無限ノ權力ヲ有スルヨリ生
スル所ノ費用ハ世人ノ最モ嫉惡スル所ニシテ如何ナル公
費ト雖モ世人ノ之ヲ嫉惡スルコト之ニ如クモノアラサルホ
リ蓋シ年金ヲ與フルハ王室ノ負債ヲ起ス所ノ大原因ノ一
ニシテ人民ニ取テ苛重ナル負擔ヲ生スルノミナラス又之
カ爲メニ國王ノ權勢ヲ加ヘ議院ノ獨立ヲ害スルノ効アリ
ハナリサレハホルク氏カ一千七百八十年ニ於テ其財政改
革策ヲ提出スルヤ氏ハ年金ノ高ノ多キニ失シ且之ヲ制ス
可キ適當ノ規則ナキヲ論シ又氏ハ秘密ノ授與狀ヲ以テ
國王ノ隨意ノ期限ノ間年金ヲ與フル所ノ當時ノ習慣ノ非

ナルヲ特ニ痛論セリ實ニ此事ノ如キハ據テ以テ危險ナ
ル私曲ヲ行フノ患アレハナリ而シテ氏ハ英蘭ノ年金ヲ漸
次ニ減少シテ終ニ六万磅ニ至ラシメ又年金ヲ與ルハ勳功
ヲ賞スルト真正ノ慈善ヲ行フトノ二事ノミニ限り且今後
非常ノ事アル場合ニ於テハ上下兩院ノ奏陳ニ因テ之ヲ處
スルコトニ定メシヲ説キタリ

一千七百八十二年 ロッキンガム公ノ内閣ニ於テ制定セシ所
ノ王室年俸金條例ニ因リ大ニ年金授與ノ權ヲ制限セリ即
チ年金ノ總高ノ九万磅ニ減スルマデハ一ケ年三百磅以上
ノ年金ヲ新々ニ授與ス可カラサルコトナシ又一年間ニ新
タニ授與ス可キ年金ハ常ニ六百磅ニ越ユ可カラストナシ
且其年金ノ授與狀ハ悉ク之レヲ議院ニ示サ、ル可カラサ

一千七百八十
二年ニ於テ年
金授與ノ事ニ
制限ヲ立ツル
ヲ

愛爾蘭ノ王室
世襲歳入ヨリ

ルトトナシ又今後年金ノ総高ハ九万五千磅ニ超ユ可カラ
ストノ制限ヲ立テ又一千二百磅以上ノ年金ヲ一人ニ授與
ス可カラサル事トナセリ此ノ條例ハボルン氏ノ主義ヲ十
分ニ認メシモノニシテ其條例中ニ殆ント氏ト同一ノ言語
ヲ以テ隨意ノ期限ノ間秘密ノ年金ヲ與スルノ習慣行ハル
ハカ爲メニ今後隱密ニシテ且危險ナル私曲ヲ行フニ至ル
ヘキトヲ述ヘタリ而シテ此ノ條例ニ於テ今後ハ一切ノ年
金ハ之レヲ出納局ヨリ仕拂フト定メタリ且又此條例ニ
於テ年金ヲ與ルハ困窮セル人ニ惠與スルト勳功ヲ賞スル
トノ二事アルノミニ限ラサル可カラストノ主義ヲモ認メ
タリ

英蘭ノ年金ハ上記スル如キ制限ト議院ノ監督トヲ受ク

仕拂フ所ノ年
金

ルニ至リシト雖モ國王ハ尙ホ政治上若クハ私事上ノ服務
ヲ賞スルノ資金ヲ生スヘキ他ノ泉源ヲ有スルナリ愛蘭ノ
王室世襲歳入ハ其純入高二十七万五千一百零二磅ニシテ
此歳入ハ尙ホ國王ニ於テ隨意ニ之ヲ支消シ得ルノミナラ
ス又將來ノ國王ヲ束縛スル如キ方法ヲ以テ此等ノ歳入ヲ
人ニ賜與スルヲ得ルナリ故ニ此等ノ便益ナル資金ニ向
テ大ニ年金ノ負擔ヲ課スルニ至リタルハ亦怪ムニ足ラサ
ルコニシテ此等ノ歳入ハ實ニ各種ノ方法ヲ以テ之ヲ賜與
シタリ即チ或ハ國王隨意ノ期限ノ間之ヲ賜與スルアリ或
ハ國王一生ノ間之ヲ賜與スルアリ或ハ一定ノ年限ノ間又
ハ拜受者ノ一生ノ間之ヲ賜與スルアリ或ハ既生ノ數人ノ
生命ノ間之ヲ賜與スルアリ或ハ豫約ノ方法ヲ以テ之ヲ賜

與スルアリキ而シテ此ノ如キノ賜與ヲ行フコトニ關シテ毫
 モ制限ナカリシヲ以テ隨テ年金ノ額ハ絶ヘス増加シタリ
 シカハ國王カ斯ク年金ヲ濫與シテ財貨ヲ浪費スルノ非ナ
 ルヲ久シク世人ノ憂フル所トナリテ一千七百五十七年
 夙ニ愛爾蘭ノ下院ニ於テ國王カ公金ヲ浪費シテ斯ク巨額
 ノ年金ヲ賜與スルハ是レ無謀ニ歲入ヲ支消スル者ニシテ
 王室及ヒ人民ニ有害ナリトノ議ヲ全會ノ一致ヲ以テ決セ
 シヲアリタリキ然ルニ年金ノ額ハ一千七百五十七年ニ於
 テハ四万磅ナリシニジョージ三世ノ即位以來三十年間ニ
 其額ヲ三倍シ一千七百九十三年ニ於テハ十二万四千磅ノ
 巨額ニ達シタリ而シテ今ヤ弊害露發シテ最早之ニ忍ブコ
 能ハサリシヲ以テ該年政府ハ自カラ變革ヲ行フノ議ヲ出

シ且其議ハ愛爾蘭議院ノ容易ニ採用スル所トナレリ蓋シ國
 王ハ曩ニ英蘭ノ王室世襲歲入ヲモ捐棄シタルカ如ク今又
 愛爾蘭ノ王室世襲歲入ヲモ之ヲ捐棄シ其代償トシテ十四
 万五千磅ノ王室年俸金ヲ受ケタリ尤モ此王室年俸金中ニ
 ハ國王ノ與フル所ノ年金ヲ含マサル者トス而シテ當時年
 金授與ノ總高ハ十四万五千磅ニシテ到底之ヲ八万磅ニ減
 セサル可カラサルコトナシ斯ク其年金ノ減スルマテハ國
 王ハ一ケ年一千二百磅以上ノ年金ヲ裁タニ賜與スルコト
 得スト定メタリ然レモ國王ハ尙ホ終身年金ト豫約年金ト
 ヲ與フルノ權ヲ保持シテ之ヲ行ヘリ一千八百十三年ニ至
 リ愛爾蘭ノ年金ハ始テ此條例ノ企圖セシ所ノ如ク八万磅
 ニ減少セリジョージ四世ノ位ニ即クニ及ヒ愛爾蘭ノ年金

ハ更ニ減シテ五万磅トナレリ而シテ其年金ノ斯ク減スル
マテハ一ケ年一千二百磅以上ノ年金ヲ新タニ賜與スル
ヲ禁シタリキ

蘇格蘭ノ王室
世襲歳入ヨリ
仕拂フ所ノ年
金

蘇格蘭ノ王室世襲歳入ハ一千八百十年ニ至ルマデハ全ク
議院ノ管轄外ニアリキ而シテ該年ニ於テ此等ノ世襲歳入
ヨリ仕拂フ所ノ年金ノ額ハ三萬九千磅ナリシガ議院ハ此
等ノ年金ノ二萬五千磅ニ減ズルマデハ一ケ年八百磅以上
ノ年金ヲ新タニ賜與ス可ラザルト定メ且一ケ年三百磅
以上ノ年金ヲ一人ニ賜與スル能ハサルコトナセリ
以上ノ外ニ尙ホ一資金ノ議院ノ管轄外ニアリテ隨テ大ニ
年金ノ負擔ヲ課セラレタル者アリ是レ即チ四分五厘ノ租
稅ニシテ此租稅ハ一千八百三十年ウヰリアム四世カ此租稅

四分五厘ノ租
稅ヨリ仕拂フ
所ノ年金

年金ノ合併

チ捐棄セシマデハ議院ノ權ニ歸セサリキ而シテ國王カ從
來既ニ賜與セシ所ノ年金ハ尙ホ政府ニ於テ之ヲ仕拂ヘリ
又此時ニ於テ英蘭ト蘇格蘭及ヒ愛蘭トノ年金ヲ合併シ且
合同王國ノ年金總額ハ當時十四萬五千七百五十磅ナリシ
ニ之ヲ減シテ七萬五千磅トナセリ而シテ其年金ノ殘額ハ
「コンソリデテッド、フォンド」ト稱スル公債償却資金中ヨ
リ之ヲ仕拂ヒタリ

一千八百三十
七年ニ定メタ
ル年金ノ規則

終ニ我女王陛下ノ即位スルニ及ビ國王ノ年金ヲ賜與スル
ノ權ヲ一ケ年一萬二千磅ノ金額ニ制限セリ而シテ一千八
百三十四年二月十八日ノ下院ノ決議ニ從ヒ此等ノ年金ハ
正當ニ國王ノ恩賜ヲ要求シ得ヘキ人々ト國王ニ對シテハ
身上ノ勤務ヲ爲シ又ハ國家ニ對シテ義務ヲ尽シ又ハ學術

上有益ナル發明ヲ爲シ又ハ文學技藝ニ熟達セル等ノ爲メニ國王ノ嘉認ト國民ノ感謝トヲ博スルニ足ル如キ人々トノミニ之ヲ賜與ス可キト定メタリ之ト同時ニ下院ハ現存ノ年金ヲ調査セシメタリシニ或ハ拜受者ニ於テ自カラ其年金ヲ捐棄セシ者モアリ又下院ヨリ之ヲ中止シ若シハ廢止シタル者モアリキ

此ノ如ク年金ノ額ヲ減シ且之ニ關シテ適當ノ規則ヲ立テタルヲ以テ復タ此事ニ關シテ憲法上ノ嫉惡ヲ入ルハ地ナキニ至レリ蓋シ最早年金ヲ以テ私曲ヲ行フノ手段トナスヲ能ハス又之カ爲メニ大ニ國王ノ權勢ヲ加フルニアラスシテ且人民ノ之カ爲メニ受ルノ負擔ハ甚タ輕微ナリトス而シテ此等ノ國王ノ恩賜金ヲ拜受シタル人々ハ概テ皆

國王カ其王族ニ對スルノ權力

尊敬ス可キ人々ト哀憫ス可キ人々トノミニシテ敢テ之ヲ濫與スルカ如キトナキニ至レリ

國王及ヒ王族カ議院ニ對スル金錢上ノ關係ハ以上論スルカ如シ今請フ在位國王カ王族ニ對スルノ關係ヲ簡短ニ觀察セン

クローセスタ
ノ公ノ結婚

蓋シ國王カ王族ニ對スルノ權力ハ單ニ父母タルノ權力ニ止マラスシテ實ニ之ヲ國王ノ特權中ニ列ス可キナリ而シテ一千七百七十二年ニ於テ王(按)シヨロイシハ此權力ヲ張ラシカ爲メニ議院ノ幫助ヲ求メタリ蓋シクローセスタノ公(按)王ノハウアルドグレイヴ公ノ寡婦ト結婚シテ既ニ數年ヲ經タリト雖モ此女ハ公ノ妻ナリト公認セラレスシテ又公ノ名爵ヲ犯サ、リキ故ニ此女ハ宮廷ニ於テハ公ノ妻ナリ

カムベルランド公ノ結婚

ト認メラレサリシト雖モ又公ノ妾ナリトシテ賤遇セラレ
 シニモアラヌ妻タルノ資格ニモアラヌシテ其中間ノ曖昧
 ナル位置ヲ占ムル者ナリキ
 一千七百七十一年ノ秋ニ至リ王ノ第三弟カムベルランド
 公ハホルトント結婚セシヲ王ニ通知シ而シテ公ハ此女
 ナシテ現ニ自家ノ名爵ヲ稱ヘシメシヲアリキ此女ハイル
 ノハム公ノ女ニシテ彼ノ王党ノ周旋ニヨリウイリッスニ代
 テミツドルセツキスノ議員ニ選舉セラレタル有名ナルコロ
 ネル、ラットレルノ妹ナルコハ實ニ奇遇ノ事情ナリト云フ
 可シ蓋シ王ハウイリッスヲ嚴罰シタリト雖モ却テ彼レノ爲
 メニ勝利ヲ占メラレテ其復仇ヲ受ケサルヲ得サリキ而シ
 テラットレルノ如キハ王カウイリッスヲ歴スルニ於テ其機

關トセシ所ナリト雖モ今ヤ王ハラットレルノ親族ノ爲メ
 ニ耻辱ヲ受ルニ至レリ(按)ウイリッスハ初メエトリスナリト
 罪ノ爲メニ其議員ノ席ヲ失ヘリ而シテ爾後ニ及ヒタルセツ
 キス區ノ爲メニ議員ニ選舉ヲ無効ノモトナシ内閣宰相ノ周旋
 雖モ下院ハ氏ノ選舉ヲ無効ノモトナシ内閣宰相ノ周旋
 ニヨリラットレルノ公ハ身王族ノ貴キニ居ナカ私ニホル
 ヤカムベルランド公ハ身王族ノ貴キニ居ナカ私ニホル
 トント結婚セシカ故ニ王ハ之ヲ以テ自家ノ耻辱ナリト思
 惟セシナリ本文ハ蓋故ニ王ハカムベルランド公及ヒホル
 シ此事ヲ云フナリ
 トノ宮廷ニ出入スルヲ禁ゼシノミナラズ何人ト雖モ宮
 廷ニ出入セシトテ欲スル者ハ公及ヒ公ノ夫人ニ交際ス可
 カラサル旨ヲ令シタリ初メ王ハカムベルランド公ノ結婚
 ヲ無効ナリトスルニ至ル可シトノ冀望ヲ有セサルニアラ
 サリキ何トナレハ法律ノ定ムル所ノ通常ノ儀式ヲ舉行セ
 スシテ結婚シタル者ナレハナリ然レモヨトシ二世ノ命

令ニヨリ王族ヲハドウィツク公ノ制定セル婚姻條例ノ限
 外ニ除キタルヲ以テ王族ハ此條例ヲ守ルヲ要セサルナリ
 盖シヨヨシ二世ハ人民中ニ施サンカ爲メニ制定セシ所
 ノ制限ヲ自家ノ王族ニ課スルヲ欲セサリシナリ然レモ現
 ニ法律ノ定ムル所ノ制限アルナレハ或ハ之カ爲メニカキ
 ベルラソド公ノ此惡ム可キ結婚ヲ延期シ若クハ之ヲ阻害
 スルニ至ルコトナキヲ保セス是レ王カ此結婚ヲ無効ナリト
 スルニ至ル可シトノ冀望ヲ有セシ所以ナリ而シテカムベ
 ルラソド公ハ斯ク臣民ノ女ト結婚シ又之ニ次キグロウセ
 スター公ハ其結婚ヲ公然明言スルニ至レリ若シ公ニシテ
 之ヲ明言セス久シク曖昧ニ附シタラソドニハ大ニ世情ノ寬
 恕ヲ得テ王モ亦激怒シテ條例ヲ制定スルニ至ラザリシナ

國王其孫ニ對
 スルノ權力

テ
 王ハ今其王族ノ將來ノ婚姻ニ關シテ曾テ人民ノ婚姻ニ關
 シテ企畫セシコトアラサル如キ嚴ナル制限ヲ立テシコト決
 心セリ然ルニ若シ果シテ王家ノ血統ニアラサル人ト結婚
 スルコト王族ニ禁スルニ於テハ之カ爲メニ王家ノ諸子ヲ
 シテ法律ヲ犯サシムルノ危險アルコトハ王及ヒ王ノ諸弟ノ
 品行ニ就テ之ヲ証ス可キナリ蓋シ王ハ其若年ノ時貴女ヲ
 ライレンノツクスヲ寵愛シ又ヨーク公（接王ノ第一弟ノ如キモ貴
 女マリイ、コークニ戀着シタリキ然ルニ今ヤ王ハ其諸弟ノ
 結婚ノ不當ナルヲ痛歎セリ
 原來王族ノ事ニ關シテ國王ガ求ムル所ノ權力ハ既ニ甚ダ
 大ナリトス一千七百十八年ヨシヨシ一世カ公然其太子ト

相敵視セシ時王ハ國王タル者ノ特權ニ因リ王カ其諸孫ノ
 教育ヲ管理シ加之其婚姻ノ事ヲ指揮スルノ權アルコトヲ説
 キ且太子カ父トシテ有スル所ノ權力ハ此等ノ事ニ及フ者
 ニアラサルコトヲ主張セリ此疑問ハ之ヲ判事ニ付シタリシ
 ニ十二人ノ判事中十人ハ悉ク判事長パーカー氏ハ後ニ
 至リマッシュレスフィールド公ト稱スノ説ニ與ミシテ王ノ要求
 ナ可トスルノ判斷ヲ下シタリ而シテ異説ヲ唱ヘタル二人
 ノ判事ハ王ノ諸孫ノ教育ハ其父ノ權ニ屬スル者ナリトシ
 説ヲ持シタルニモ拘ラス尙ホ王ノ諸孫ノ成長スルニ及ヒ
 テ其婚姻ノ事ヲ周旋シ及ヒ之ヲ認可スルノ權ハ我國王ニ
 屬スル者ナリト論シタリ
 然ルニ今ヤ法律ノ力ヲ以テ國王ノ此等ノ特權ヲ擴張セン

一千七百七十

二年ノ王族婚
姻條例

トスルニ至レリ一千七百七十二年王ハ書ヲ上下兩院ニ送
 リ王族ノ婚姻ヲ認可スルノ權ハ公事ニ關スルノ故ヲ以テ
 從來國王ノ有スル所ナルカ今回更ニ之ヲ有効ナラシメ
 コトヲ望ミ且前王ジョージ二世ノ子孫(外國ノ人ニ婚姻セル
 諸王女ノ産セシ所ノ諸子ヲ除キ)ハ王ノ認可ヲ經スシテ婚
 姻ヲ行フ能ハサルコトニ定ムルノ利害如何ヲ討議セシコトヲ
 兩院ニ求メタリ

王族ノ婚姻ニ
關シテ王ノ要
求セシ所ノ特
權

翌日王族婚姻條例案ヲ上院ニ提出セリ而シテ此條例案ノ
 例言中ニ王カ前日ノ書ニ於テ求メシ所ノ特權ヲ十分ニ確
 言シ又王ノ要求ノ賢ニシテ且利ナルコトヲ述ヘタリ此條例
 案ニ於テ制定スル所ヲ舉レハ曰クジョージ三世ノ子孫(外
 國ノ人ニ婚姻セル諸王女ノ産セシ所ノ諸子ヲ除キ)ハ凡テ

豫メ王ノ認可ヲ經スシテ婚姻ヲ行フヲ得ス又王ノ認可
 狀ニハ王手ツカラ之ニ記名シ樞密院ニ於テ之ヲ宣告ス可
 シ而シテ若シ王ノ認可ヲ經スシテ婚姻ヲ行フ者アラハ此
 等ノ婚姻ハ悉ク無効タル可シト然レモ別ニ一條ヲ立テ
 曰ク王族中二十五歳以上ニ達シタル者ニ於テハ十二月
 以前ニ其旨ヲ樞密院ニ通知シ其間ニ於テ上下兩院カ之ヲ
 非トスルノ意ヲ示サ、ルニ於テハ王ノ認可ヲ經ニシテ其
 婚姻ヲ行フヲ得ヘシト蓋シ此一條ハ初メ王カ書ヲ上下兩
 院ニ送リシ時ニハ未ダ其計畫ナカリシ者ト見ヘタリ世ニ
 傳フル所ニ據レハフツクス氏カ此議案ニ抵抗センカ爲メ
 ニ其職ヲ辭シタルト又王ノ助言者中ニ於テ此議案ヲ非ト
 セシ者アリシトノ故ヲ以テ遂ニ右ノ一條ヲ加ヘテ條例ノ

制限ヲ緩和スルニ至リシナリト云ヘリ又此議案ニ制シテ
 日ク斯ク禁止スル所ノ婚姻ヲ行フニ於テ其儀式ニ與リ若
 クハ之ヲ助ケ若クハ其席ニ臨メル者ハ其何人タルヲ問ハ
 ス凡テ不臣ノ罰ニ處ス可シト
 此議案ハ王ノ自カラ計畫セシ所ニシテ諸宰相ハ唯止ムヲ
 得スシテ之ニ一致セシ者タルヤ疑フ可カラザルナリ王カ
 其特權ノ事ニ關シテ自カラ持スル所ノ意見ノ發動シテ遂
 ニ王ヲシテ少ナシモ自家ノ王族ニ對シテハ最上ノ權ヲ有
 セサル可カラズ決心セシムルニ至リシナリ而シテ王カ
 今丁年ノ王族ニ對シテ自カラ求ムル所ノ無限ノ權力ハ實
 ニ驚ク可キ者ナリト云ハサル可カラズ請フ先ツ王カ此特
 權ヲ求ムルノ權アルヤ否ヤヲ論セシ蓋シ王カ今求ルノ所

ト同様ニ宏大ナル特權ハ曾テ公認セラレシコアル乎ト云
 フニ一千七百十八年ニ於テ國王カ唯其孫ニ對シテ權力ヲ
 有スル者タルコト所謂判事ノ高説ナル者ニ據リテ既ニ認
 メラレシ所ナリ然レモ其認メラレタル特權ハ唯此一事ニ
 止リテ他ニ及ハサルナリ且ヤ當時判事ノ主張セシ所ノ意
 見チ一讀スルキハ其説ノ根據トスル所甚タ薄弱ニシテ法
 律ト先例トチ牽強附會シ其説ハ便益主義ニ根據シテ立
 タル者ニシテ過度ニ其便益主義ヲ強張シタリトノ感ナキ
 ヲ得サルナリ又政略上ノ点ヨリ之ヲ觀察セシニ國王カ王
 族ノ爲メニ其婚姻ノ事ヲ商議スルノ權ヲ有シ此事ニ關シ
 テ國王カ有スル所ノ權力ハ唯父母トシテ有スル所ノ權力
 ニ過ク可キコトモ亦己ムヲ得ザルヲ必要ナシト然レモ

王ノ特權有無
 ノ疑問ヲ判事
 ニ回付スルコト

モ今ヤ王ノ求ムル所ニ其齡如何ニ拘ラズ凡テ王ノ諸
 弟ト其叔父及ヒ從兄弟ニモ及フモノナリ故ニ此ノ如ク宏
 大ナル要求ニ直チニ之ヲ許容スル能ハサル所ニシテ先ツ
 左ノ疑問ヲ判事ニ付シテ其説ヲ求メズリ曰ク王ハ法律上
 ニ於テ前王ヨリシテ二世ノ子孫(王ノ自家ノ諸子ハ其未
 年以前此限ニアラス)ノ婚姻ヲ周旋シ且之ヲ認可スルニ權
 利ヲ有スルヤ否ヤト而シテ此疑問ハ内國ニ住スル者ト否
 チ問ハス凡テヨリシテ二世ノ諸子孫ヲ含ム者ナルカ故ニ
 九人ノ判事ハ皆王ハ此ノ如キ權利ヲ有スル者ニアラスト
 ノ答ヲ爲セリ故ニ更ニ疑問ノ意義ヲ制限シテ再ヒ之ヲ判
 事ニ付シタリシニ判事ハ答テ曰ク國王ハ諸子及ヒ諸孫ト
 假定ノ王位繼續者(外國ノ人ニ嫁セル諸王女ノ産セザル所)

諸子ハ此例ニアラストニ對シテハ國王ハ其婚姻ヲ周旋シ且之ヲ認可スルノ權ヲ有スルト雖モ其他ノ王族中如何ナル區域ニマデ此ノ如キ權ヲ及ホス可キ者ナル乎ハ余輩未ダ其事ノ確定セル者アルヲ發見スルコト能ハスト蓋シ議案ニ明言スル所ノ特權ハ判事ノ許諾セシ所ノ特權ニアルコト明ナリ然ルコト大法官及ヒアブスリー公ノ如キハ判事ノ説ヲ顧ミテ説ヲ爲シテ曰ク余輩ハ議案中ノ各條各款各語各綴音各文字悉ク之ヲ贊ス可シ而シテ如何ナル修正ヲ加ヘントスルモ之ニ一致セサル可シト此説ヤ實ニサルヨリ公（按）即チニ相應シクル粗暴ノ言ト云フ可シ公ハ又確言シテ曰ク此特權ハ其國家ニ緊要ナルコトニ根據スル者ナリト此ノ如キ説ヲ立テ、此議案ノ根據トセバ國王カ求ムル所

婚姻條例案ノ
主義ノ擅恣ナ
ルヲ

其他ノ如何ナル權力モ之ヲ適用シテ主張スルヲ得サル者アラサルナリ
此議案ノ擅恣ノ性質ヲ有スルコトハ甚ダ著明ナリ抑々王族ノ婚姻ニ關シテ幾分ノ制限ヲ設クルハ敢テ不理ナラサル可シ例ヘハ王族ハ王ノ認可ヲ經スシテ臣民若クハ羅馬舊教黨ノ人又ハ我國ト戰爭ヲ行フ所ノ外國王家ノ人ト婚姻スルヲ得スト云フ如キ制限ヲ立ツルハ則チ可ナカルヘシ然レヒ王一身ノ擅斷ニ從フノ外ハ一モ別ニ規則ヲ設ケスト云フニ至テハ是レ立法上ノ正確ナル原理ヲ悉ク破壞スル者ナリト云ハサル可カラス又王族ノ諸子及ヒ諸女ハ二十五歳マデヲ未丁年ノ期トナスハ是レ獨リ婚姻ノ事ヲ一般法律ノ例外ニ置ク者ニシテ甚ダ嚴ナリト云フ可シ

又國王ハ王族ノ二十六歳ニ達スルマデハ其婚姻ヲ禁スルヲ得ルノミナラス若シ永久之ヲ禁セント欲セハ唯國王ニ從屬スル所ノ議院ノ發言ヲ得ハ則チ足レルノミ而シテ此ノ如キノ規則ハ何ニ據ルカト云フニ人法若クハ天法ノ一般ノ原理ニ基ク者ニアラスシテ唯一人ノ強力者ノ擅斷ヲ以テ之ヲ定ムル者ニ外ナラサルナリ然レモ王ノ一身ノ意志ハ論ノ抵抗モ數人抵抗モ共ニ之ヲ挫折シテ遂ニ勝ヲ制スルヲ得タリ而シテ王ハ此議案ニ抵抗セシ者ヲ寬恕スルヲ能ハサリキ上院ニ於テハ此議案ニ對シ二種ノ異議又立ル者アリテ甲ニハ十四人ノ議員之署名シ乙ニハ七人ノ議員之署名セリ此等ノ異議ノ理由書中於テ悉ク此議案ニ對スル駁議ノ要點ヲ簡明ニ記シタル

此等ノ反對アリシニ雖モ尙ホ此議案ハ速ニ上院ヲ通過セリ下院ニ於テハ此議案ニ反對スルノ説ハ更ニ強固ニシテ且久シキヲ係ツテ得タリ下院ハ上院ノ記録簿ニ就テ判事ノ説ヲ搜索シ而シテ此議案ヲ痛撃スル所ノ議論ハ學識共ニ具ハリタル討論ナリキ然レモ遂ニ有力ナル手（按有力手トハ王ヲ指シテ云フナリ）爲メニ此議案ヲ通過セラルニ至レリ此討論ノ際下院ノ門戸ヲ閉鎖シテ一切傍聽人ヲ入ルヲ禁シ貴族ハ下院ノ傍聽席ニ入ルヲ得ンヲ求メタリ下院雖モ許サレサリキ加之政府ハ此議案ヲ印刷スルヲ拒ミ且此事ニ於テ非常ノ多數ノ賛成ヲ得タリ而シテ議長ノ發議ニ因リ王カ婚姻ヲ認可スル所ノ証狀ニハ國璽ヲ鈐ス可シトノ虚飾ノ修正ヲ加ヘタルヲ止リ其他ニ毫モ修正ヲ加フ

ウエールズ太子ノ秘密ノ結婚

ルヲ得スシテ三月二十四日遂ニ此議案ハ可決セラレタ
 リ後ニ至リ此條例ヲ廢セントシ又ハ之ヲ避ケントシタル
 一アリト雖モ其功ヲ奏スルヲ能ハスシテ此條例ハ嚴ニ維
 持セラレタリ

一千七百八十五年ウエールズ太子（按）ジョージ四世ヲ指スハ羅馬舊教ヲ
 奉スル所ノフイツヘルベルトト云ヘル女ト秘密ニ結婚セリ
 然レモ此結婚ハ王ノ認可ヲ經スシテ之ヲ行ヒタル者ニシ
 テ無効ノ者ト定リシカハ太子ノ放逸ナル此美女ヲシテ信
 仰ノ自由ヲ得セシメ兼テ又自家ノ情慾ヲモ恣ニシタリ若
 シ太子ニシテ羅馬舊教ヲ奉スルノ人ト有効ノ結婚ヲ行ヒ
 タラノニハ爲メニ法律上王位繼續ノ權ヲ失ハサルヲ得ス
 雖モ斯クノ如ク其結婚ハ無効ノ者ト定リシヲ以テ太子

サセツキス公ノ婚姻

ハ結婚ニ附殖スル所ノ義務ヲ免レ其王位繼續ノ權ヲ失ハ
 サルヲ得タリ太子ノ此結婚ハ固ヨリ法律上無効ノ者ナリ
 ト雖モ或ハ之カ爲メニ權利ノ條例ノ罰則ニ關シテ困難ナ
 ル疑問ト議論トヲ生スルニ至ルナキヲ保ス可カラサリキ
 而シテ若シ此結婚ノ事ヲ明言シタランニハ太子ハ必ズ世
 ノ誹謗ト侮慢トヲ受サルヲ得サリシヤ疑フ可カラサルナ
 リ故ニ太子ハ此結婚ノ事實ナシト云ヒテ之ヲ拒ミ其最親
 ノ朋友ヲ機關トシテ已レテ欺キ世ヲ瞞ラガシタリ（按）最親ノ朋友
 トハ太子ノ妃ヲランスウヰツキノカロリト云フ太子ハ
 陽ニカロリトシテ陰ニフヰツヘルトシテ愛シ世人
 ニハカロリトシテ私ニハ婚シタル事ヲ示シ以テフヰツ
 ヘルベルトト私ニハ婚シタルヲ指スナリ

サセツキス公ハ王ノ認可ヲ經スシテ婚姻ヲ行フニ一回ニ
 及ヘリ初メ一千七百九十三年ニ於テ貴女アウガスタマル

レト結婚シ其後又貴女セシリアアンダーウイトト結婚セリ公ノ最初ノ婚姻ハ外國ニ於テ其儀式ヲ行ヒシ者ナレハ其結婚ハ王族婚姻條例ニ照ラシテ無効ナリトス可キ者ナルヤ否ヤノ疑問起レリ然レモ後改テ英國ニ於テ其儀式ヲ行ヒタリ蓋シ英國ニ於テハ此結婚ハ無論ニ無効ノモノタラサルヲ得サルナリ

王ハ直チニ國王附屬ノ訟師ヲシテ此婚姻ヲ無効ナラシムルノ詞訟ヲ開カシメタルニアルチスノ裁判所ハ之ニ對シテ全ク無効ナリトノ判決ヲ下シタリ

一千八百三十一年ニ於テ政府ハ此婚姻ノ有効ナルヤ否ヤニ關シテ法官ノ説ヲ求メタリシニ法官ハアーチスノ裁判所ノ判決ノ至當ナルコトヲ証セリ一千八百四十三年ニ於テ

公ノ薨スルニ及ヒ公カ此婚姻ニ因テ設ケシ所ノ公ノ子アウガスタステストハ其父ノ領地及名爵ヲ繼カンコトヲ要求シタリ抑々此婚姻ノ式ハ初メ一千七百九十三年ニ羅馬ニ於テ英國教會ノ規則ニ從ヒ同教會ノ一僧カ之ヲ舉行セル者ナリ故ニ此結婚ハ英國ノ臣民ノ間ニ於テ固ヨリ有効ノ契約ナルヘシト雖王族ニ在テハ王族婚姻條例アレカ爲メニ之ヲ有効トスルヲ得ズ而シテ上院ニ於テ之ヲ審判スル際王族婚姻條例ノ制限ハ英領以外ニ及ブ者ニアラサルコトヲ主張スル者アリキ然レモ諸判事ハ皆同一ノ説ヲ立テハ曰ク此王族婚姻條例ノ制限ハ人身上ニ關スルノ制限ナレハ英國外及ヒ英國管轄外ト雖モ此等ノ制限ハ此條例ヲ遵奉ス可キ人々ノ行ク所ニ付隨シテ離ル可カラスト而シテ

一千八百四年
王カ其孫女シ
ヤーロツトノ
教育ヲ管理ス
ルノ權アルコ
ト確定スルコ

上院ハ此說ヲ採リ右要求者ハ其權利ヲ證スル能ハストノ
判決ヲ下セリ
國王カ其孫ノ教育ヲ管理スルノ特權アルコトハ一千七百十
八年ニ於テ既ニ公認セラレシ所ニシテ一千八百四年ニ於
テ此事再ヒ確定セラル、ニ至レリ蓋シ王ハ其孫女シヤ
ロツトヲ後見スル權ヲ求メタリシニシヤーロツトノ父ウ
ールズ太子ハ其助言者ノ互ニ說ヲ異ニスルニ迷ヒ此權ヲ
王ニ讓ルヘキカ將タ王ト此權ヲ爭フヘキカニ關シテ久シ
ク遲疑シテ決セサリキ然レモ終ニ太子ハシヤーロツトノ
教育ヲ管理スルノ權ヲ王ニ托セシコトヲ諾シタル者ノ如シ
ト雖モ其約條ノ語意甚タ明瞭ナラサル者アリシヲ以テ之
ニ關シテ誤解ヲ來タスニ至レリ而シテ又太子ハ自家ノ一

且爲シタル約條ヲ廢棄シタリト云ヘリ然レモ終ニピット
氏ハシヤーロツトヲ「ウインヅール」ノ宮殿ニ引取り以テ此議
論ノ局ヲ結ヘリ然レドモ太子ヲシテシヤーロツトノ教育
ノ事ニ與ルノ權ヲ全ク失ハシメサリキ

明治十五年九月三十日版權免許
明治十六年五月三十日出版

定價金壹圓

譯者

神奈川縣平民
島田三郎

全

兵庫縣士族
乘竹孝太郎

出版者

自由出版
會社幹事

東京府平民
角田眞平

刊行所

自由出版會社

東京々橋區竹川町十九番地

自由出版會社再版并新刊書目

○第一回再版之部

英國トッド著 尾崎行雄譯

○英國議院政治論

內

全十冊

內閣更迭史

定價金五十五錢○改正社員賣渡金三十錢二厘五毛

內閣會議篇

定價金壹圓二十錢○改正社員賣渡金六拾六錢

至尊(一名)王室篇

定價金四拾五錢○改正社員賣渡金廿四錢七厘五毛

英國ヘンサム著 藤田四郎譯

○政治眞論(一名)主權辨妄

全 定價金七拾錢○改正社員賣渡金三十八錢五厘

○內外政黨事情

全 定價金七十錢○改正社員賣渡金三十八錢五厘

但政治眞論內外政黨事情ノ兩書ハ當時賣切再版不仕候

○第二回再版之部

○英國議院政治論

全十冊內

總論并ニ
制度沿革史

合卷

定價金四十五錢○改正社員賣渡金廿五錢

佛國シヤルボンニエー著 米田 精譯

○歐米代議法鑑

全四卷內

第一卷 白耳義、哇馬、西班牙、佛蘭西、瑞西、希臘之部

定價金四十五錢○改正社員賣渡金廿五錢

英國ロルド、ロツテスレー著 青木 匡譯

○政法原論

全四冊內
第一卷

定價金四十五錢○改正社員賣渡金廿五錢

佛國ナケー著 興宮健之譯

○共和原理

上下二卷
內上卷

定價金壹圓○改正社員賣渡金五十五錢

○歐米政黨沿革史

全四冊
內一卷

定價八十五錢○改正社員賣渡金四十六錢八厘

總論之部

英國ハツクル原著 土居光華等譯

○自由之理 評論 全

定價七十錢○改正社員賣渡金三十八錢五厘

○第三回再版之部

○英國議院政治論

王權政府諸會議篇
議院政府樞密院篇

合卷

定價金四十錢○改正社員賣渡金二十二錢

全十冊內

○共和原理

上下二冊
內下卷

定價金壹圓○改正社員賣渡金五十五錢

英國マッケンゾー著 川又苗譯

○歐十九世紀政事沿革史

全三卷
內上卷

定價金壹圓十錢○改正社員賣渡金六十錢

英國スチーベン著 小林營智譯

○自由平等論

上下二冊
內上卷

定價金一圓○改正社員賣渡金五十五錢

佛國ギゾー著

○歐洲代議政體起原史

全四冊內
第一卷

定價金一圓十錢○改正社員賣渡金六拾錢

○第四回再版之部

英國メー著 島田三郎 乘竹孝太郎同譯

○英國憲法史

國王之威權并特權

全十二冊之
內第一卷

定價金七拾五錢
改正社員賣渡金四十一錢二厘

○英國議院政治論

內閣執政篇

全十冊之內
第五卷

定價金壹圓四十五錢
改正社員賣渡金七拾九錢七厘五毛

○歐米代議法鑑

第二卷

日耳曼帝國、普魯西、巴威也拉、薩克斯瓦敦堡、埃地利、利、瓦利、拉馬尼之部

全四冊之內
第二卷

定價金五拾錢○改正社員賣渡金二十七錢

○政法原論

全四冊之
內第二卷

定價金四十五錢○改正社員賣渡金二十五錢

佛國ヘルモレノ著 林庸介譯

○社會論 全三冊之内 第一卷

定價金七拾錢 ○改正社員賣渡金三十八錢五厘

英國フォーセット著 澁谷健爾譯

○政治談 全二卷之内 上卷

定價金一圓 ○改正社員賣渡金五拾五錢

○第五回刊行之部

○英國憲法史第二卷 全十二冊 之内

定價金一圓 ○改正社員賣渡金五十錢

○英國議院政治論 全十冊之内 第六卷

○改正社員賣渡金五十五錢

○歐洲代議政體起原史 全四冊之内 第二卷

○改正社員賣渡金七十錢

○歐洲十九世紀 全三冊之内 中卷

○改正社員賣渡金五十錢

○政治談 下卷

○改正社員賣渡金五十錢

以上

書籍再版稟告

本社出版第一回ヨリ第四回ニ至ル書籍ノ儀既ニ豫約期限相切候處尙新入社諸君ノ御便利ヲ謀リ前記書目之通り再版致従前ノ社員賣渡代價一割増ニテ發賣仕候間陸續御愛顧被成降度奉希上候敬白

東京々橋區竹川町十九番地

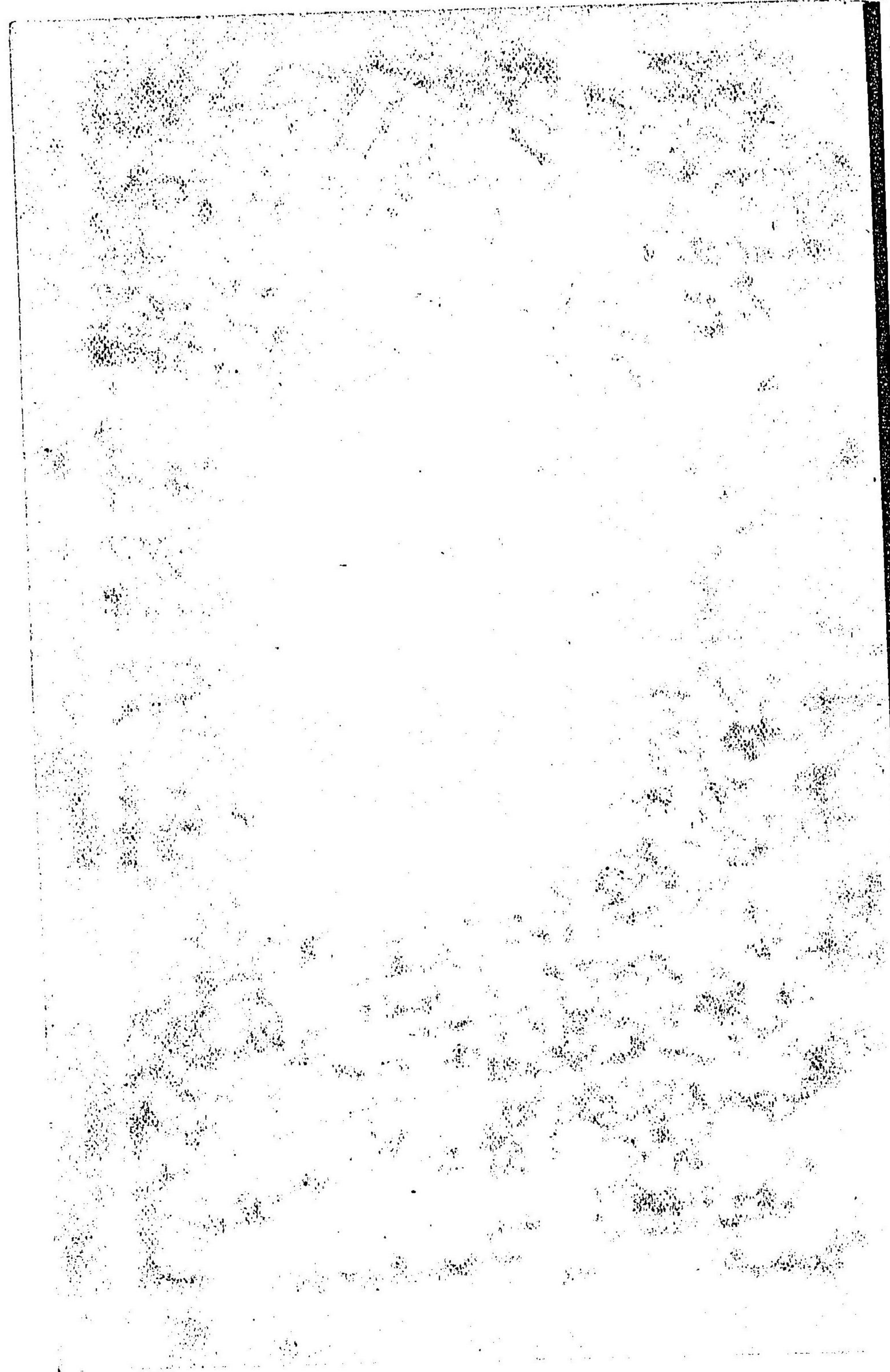
自由出版會社

明治十六年五月

書目

本館所藏各書目
一、經部
二、史部
三、子部
四、集部
五、醫部
六、算部
七、工部
八、農部
九、兵部
十、法部
十一、醫部
十二、算部
十三、工部
十四、農部
十五、兵部
十六、法部

書目



東 京 圖 書 館

新 書 門

四 十 一

部 類 函 架 號 冊

